

シンポジウム

「地域統括相談支援センターで

変わるがん相談」

日時

2015年

8月26日 水

13:00～16:00【開場12:30】

会場

国立がん研究センター  
国際研究交流会館  
3階国際会議場

(東京都中央区築地5-1-1)

厚生労働省委託事業

「がんと診断された時からの相談支援事業」

シンポジウム

地域統括

相談支援センターで

変わるがん相談

### Program

1

「地域統括相談支援センターとは

—地域統括相談支援センター事業の目指すところ—

厚生労働省健康局がん対策・健康増進課

2

「地域統括相談支援センター設置の現状や類似組織の現状、  
相談支援体制の現状と課題」

高山 智子 (国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部長)

3

地域統括相談支援センターを設置した自治体からの報告

坂口 実 (富山県厚生部健康課 がん対策推進班長)

内上ミワ子 (富山県がん総合相談支援センター 統括相談員)

加太 竜一 (三重県健康福祉部医療対策局 健康づくり課長)

黒田 和博 (三重県健康管理事業センター 教育広報部長(三重県がん相談支援センター))

増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター長)

4

地域統括相談支援センターに類似した組織から始めた  
自治体の報告

吉田万里子 (京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長/  
京都府がん総合相談支援センター長)

5

患者側からみたがん相談体制への期待

本田麻由美 (読売新聞東京本社編集局社会保障部次長)

6

パネルディスカッション「よりよいがん相談の支援体制」

厚生労働省委託事業の「がんと診断された時からの相談支援検討委員会」の天野慎介委員長の司会で、発表者と患者経験者を含む委員会メンバーにより、よりよいがん相談の支援体制について議論します。

先着180名様 → 参加無料!

※席に限りがありますので、定員になり次第、締め切りとさせていただきます。予めご了承ください。

### 開催主旨

がんに関するさまざまな分野の相談をワンストップで提供することを目的に、平成23年度から、都道府県がん対策推進事業拡充(がん総合相談事業)の一環として「地域統括相談支援センター」の設置が始まりました。平成25年度末までに全国で9カ所に設置されています。また、類似の相談対応や相談対応のマネジメント機能を持った機関も全国でいくつか誕生しています。

本シンポジウムでは、がん相談支援センターが誕生して約10年が経過した今、それぞれの地域に根ざしたがん相談支援の充実のために、何が求められ、さらにどんなことを充実していく必要があるのか、そして具体的にどのように推進すればいいのか——など、各地域にすでに設置された「地域統括相談支援センター」や類似機関のこれまでの経験から、がん相談支援体制のさらなる推進の在り方を探りたいと思います。

主催：公益財団法人日本対がん協会(厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」)

WEB <http://www.jcancer.jp/can-navi/>



参加申込書は  
裏面に!

## お申し込み方法

必要事項をご記入のうえ、FAX、E-mailにてお申し込みください。先着の180名様には参加証を郵送いたしますので、当日、受付にてご提示ください。なお、E-mailでお申し込みの場合も、氏名(フリガナ)、住所、立場、所属、電話番号、FAX番号を明記いただきますようお願いいたします。

【申込締切】2015年8月19日(水) ※定員になり次第、締め切らせていただきますので、予めご了承ください。

【E-mail受付窓口】jcancer@compass-tokyo.jp

【お問い合わせ先】公益財団法人 日本対がん協会 がん相談支援室

(厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業〈事務局〉03-5218-6051)

## 公益財団法人 日本対がん協会 行

### シンポジウム 参加申込書

# FAX. 03-5840-6130

フリガナ	
氏名	
住所 〒	
E-mail	
立場	<input type="checkbox"/> 行政機関 <input type="checkbox"/> 医療関係 <input type="checkbox"/> 患者・家族 / 患者支援団体 <input type="checkbox"/> その他( )
所属	
電話番号	FAX番号



※ 都営地下鉄大江戸線・築地市場駅A3出口から徒歩1分

※ 東銀座側出入口は工事のため通行できません。病院側からの通り抜けはできません。築地市場駅側出入口よりお入りください。

厚生労働省委託事業  
「がんと診断された時からの相談支援事業」  
シンポジウム

# 地域統括相談支援センターで 変わるがん相談

開催日：2015年8月26日（水）  
13：00～16：00 （開場12：30）

会 場：国立がん研究センター  
国際研究交流会館 3階国際会議場

主催：公益財団法人日本対がん協会（厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」）

《報告書用修正版：当日配布のプログラムとは異なる部分があります》



## 開催にあたって

天野 慎介 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長  
厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援検討委員会」委員長

**1** 「地域統括相談支援センターとは  
—地域統括相談支援センター事業の目指すところ—」 (13:00~13:10)

大谷 剛志 厚生労働省健康局がん対策・健康増進課長補佐

**2** 「地域統括相談支援センター設置の現状や類似組織の現状、  
相談支援体制の現状と課題」 (13:10~13:30)

高山 智子 国立がん研究センターがん対策情報センターがん情報提供研究部長

**3** 地域統括相談支援センターを設置した自治体からの報告

坂口 実 富山県厚生部健康課 がん対策推進班長 (13:30~13:37)

内上 ミワ子 富山県がん総合相談支援センター 統括相談員 (13:37~13:44)

加太 竜一 三重県健康福祉部医療対策局 健康づくり課長 (13:44~13:51)

黒田 和博 三重県健康管理事業センター 教育広報部長(三重県がん相談支援センター) (13:51~14:58)

増田 昌人 沖縄県地域統括相談支援センター長 (14:58~14:08)

**4** 地域統括相談支援センターに類似した組織から始めた  
自治体の報告 (14:10~14:20)

吉田 万里子 京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長  
京都府がん総合相談支援センター長

**5** 患者側からみたがん相談体制への期待 (14:20~14:30)

本田 麻由美 読売新聞東京本社編集局社会保障部次長

休憩 (14:30~15:00)

**6** パネルディスカッション「よりよいがん相談の支援体制」 (15:00~16:00)

厚生労働省委託事業の「がんと診断された時からの相談支援検討委員会」の天野慎介委員長の司会で、発表者と患者経験者を含む委員会メンバーにより、よりよいがん相談の支援体制について議論します。

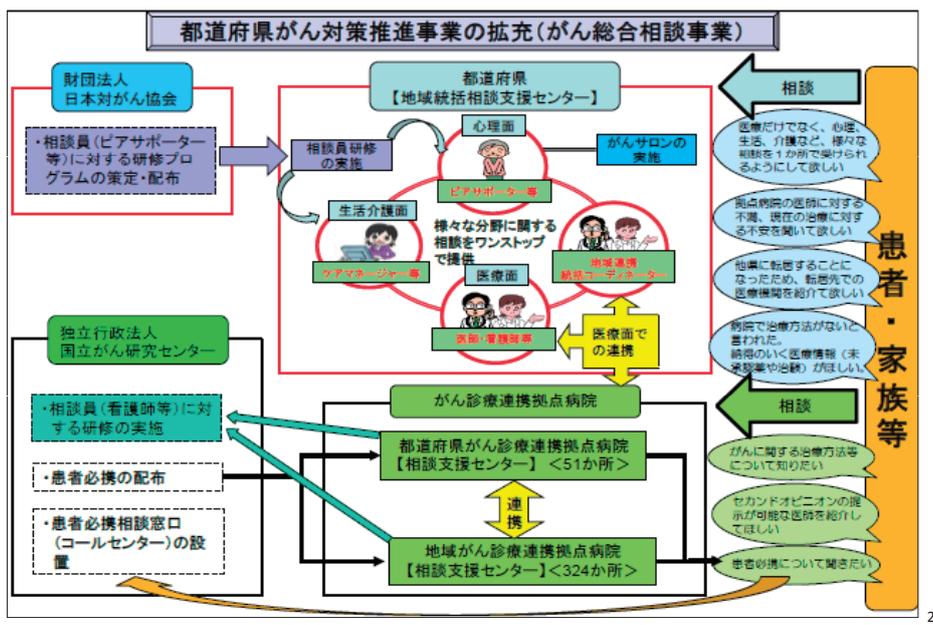
厚生労働省委託事業  
 「がんと診断されたときからの相談支援事業」シンポジウム  
 地域統括相談支援センターで変わるがん相談

## 地域統括相談支援センター設置の現状や 類似組織の現状、 相談支援体制の現状と課題

国立がん研究センターがん対策情報センター  
 高山 智子

2015年8月26日（水）13-16時 国際研究交流会館 国際会議場

## 都道府県地域統括相談支援センター



## 本事業で実施したアンケート、調査結果の概要

### 1. 全国47都道府県を対象とした「がん相談の支援体制」に関するアンケート集計結果

- ・調査方法：郵送によるアンケート調査、回収47都道府県（回収率100%）
- ・調査時期：2015年5月
- ・調査対象：全国47都道府県のがん対策・がん相談担当者

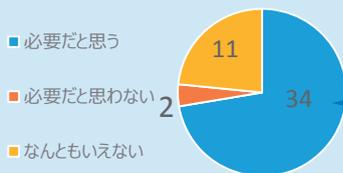
### 2. 地域統括相談支援センターおよび類似組織の訪問聞き取り調査

- ・調査方法：訪問聞き取り調査、地域統括相談支援センター、関係府県他
- ・調査時期：2014年～2015年7月
- ・訪問先：地域統括相談支援センター（10カ所）と類似組織（3カ所）
- ・聞き取り内容：基本項目、相談体制、広報・周知方法、地域（県内）での位置づけ、がん相談支援体制の県内での役割

3

### 1. 全国47都道府県「がん相談の支援体制」のアンケート結果

がんに関するさまざまな相談をワンストップで提供するための組織（仕組み）は必要だと思いますか



そのような役割を担う「地域統括相談支援センター」や「類似する組織（仕組み）」を

- すでに設けている・・・17県
- 設けていない・・・17県

#### 「その他」の内容

- ・県内患者会等がネットワークを構築する取り組みの支援（宮城県）
- ・がん専用サイトの運営（千葉県）
- ・患者会活動支援（小児がん講演会など）、働く人の日曜相談会（富山県）
- ・市民サポーター養成（石川県）
- ・小児がん患者・家族の支援（福井県）
- ・出張サポートセンター（山梨県）
- ・講演会、電話相談（奈良県）
- ・がんに関する就労支援、がん関連情報の集約と発信、がん患者を家族に持つ子供の支援、
- ・就労支援、ウィッグ、マンマ製品展示、外見関連支援（愛媛県）
- ・「心のケア相談員」養成研修の企画・運営（高知県）
- ・小児がん情報提供、希少がん情報提供（沖縄県）

#### 「地域統括支援センター」あるいは「類似する組織」の



4

## 設けていない県で「必要だと思う理由」(抜粋)

- 国の指定するがん診療連携拠点病院、道の指定する準拠点病院の他、患者団体等ががん相談窓口を有しているが、それらを統括し、連携させる役割を担う地域統括相談支援センターは必要であるとする。(北海道)
  - がん相談支援センターへの来所や電話等によるアクセスが困難な方への対応窓口が必要。
  - 現在治療中の方でなくても気軽に相談できる窓口が必要
  - がん医療のみならず、がん予防やがん検診全般について相談・情報提供できる仕組みが必要。
  - 各がん相談支援センター間や患者団体、関係機関などのネットワークをコーディネートする機関が必要。
- 患者会やピアサポートの活動支援を行う組織が必要。(茨城県)
- 休日、夜間など病院の受付時間外に相談したい患者・家族への対応が必要と思われるため。(群馬県)
- 治療の進歩や高齢化等から、医療以外の就労や介護の相談など、複雑多岐にわたる相談が増加していると想像されるため、拠点病院以外での相談窓口や相談支援センターを支援するようところが今後必要になると考える。(岐阜県)
- 相談等ができる場所が分散され、拠点病院の業務が軽減される可能性や拠点病院(相談支援センター)との役割分担も図れるため。(兵庫県)

5

## すでに設けている県で「必要だと思う理由」(抜粋)

- 主治医に知られたくない患者・家族が感じている内容を相談できるほか、県内患者会の総合的な支援なども実施できるから。(宮城県)
- 長野県では、がん診療連携拠点病院の未整備な医療圏があるが、すべての県民がその居住する地域において支援が受けられることが必要。(長野県)
- 治療終了後でも気軽に相談できる場が必要であるため。サロンの運営やボランティアの育成など、地域資源をつくるのは病院内の相談支援センターでは難しいと考えるため。(三重県)
- 病院外の第三者的な立場で、医療面だけではなく、総合的な相談ができる窓口が必要。(山口県)
- 病院に対する不安や不満を直接病院に言いにくいとの声がある。(高知県)
- 住んでいる所の近くに、気軽に足を運べる場所がある方が利用しやすいため。(宮崎県)

6

## 2. 地域統括相談支援センターおよび類似組織の訪問聞き取り調査

目的：全国の地域統括相談支援センター（10カ所）と類似組織（3カ所）の活動状況についていくつかの分類軸からその特徴をみていくことにより、地域におけるがん相談体制のさらなる活性化につなげる

- 予算
- 設置時期：「地域統括相談支援センター」（H23年度）構想前の既存組織から派生
- スタッフ構成：スタッフや活動にピアサポーター等含む
- 設置場所：院内／院外：地域の中
- 活動内容：活動や役割、マネジメント機能
- など・・・

7

	都道府県	設置年	予算 (平成26年)	設置場所 (名称)	相談員等	相談員研修
地域統括 相談支援 センター	宮城県	平成23年 前身(平成22年)	5,070千円	宮城県対がん協会	看護師	緩和医療学会等の学会や各種の研修会に参加
	千葉県	平成23年	4,800千円	千葉県がんセンター	看護師、事務員	国がんの研修、相談支援センター相談員指導者による指導
	富山県	平成25年	18,226千円	県社会福祉総合会館	看護師、保健師、事務員	相談員基礎研修、県内外視察
	山梨県	平成24年	1,700千円	山梨県健康管理事業団	看護師、保健師、ピアサポーター、事務員	県主催のピアサポーター養成講座
	三重県	平成23年 前身(平成19年)	12,189千円	三重県健康管理事業センター	看護師、事務員	国がんの研修、ネットの養成講座、公開講座、勉強会
	奈良県	平成24年	115千円	吉野保健所 (年3回窓口開設)	保健師、ピアサポーター	保健師が拠点病院の協議会分科会に参加
	山口県	平成26年	6,000千円	県庁	保健師	相談支援センターの一纏に研修会、事例検討会、連絡会にも参加予定
	高知県	平成23年 前身(平成19年)	11,750千円	男女共同参画センター	相談員 = 患者家族、臨床検査技師、事務員	国がんの研修、スピリチュアル研修、学会等（予算確保）
	沖縄県	平成23年	8,440千円	琉球大学病院	看護師 = 乳がん体験者、事務員	学会の研修会等
京都府	平成26年 前身(平成25年)	26,700千円	メルクリオ京都	相談員 = 看護師、保健師、ピアカウンセラー、事務員 京都府：健康対策課課長がセンター長を兼務、事務サポーター（ボランティア）医師、看護師、事務員	国がんの研修、各種セミナー、個人情報保護法等の研修	
類似組織	石川県	平成25年 類似前身(H20年)	12,870千円	石川県社会福祉会館	医師、看護師、事務員	
	島根県	平成26年 類似前身(H23年)	7,000千円	島根大学医学部附属病院	相談員 = 看護師、社会福祉士、事務員	国がんの研修、指導者研修、フォローアップ研修、島根県がん相談員研修会
	長崎市	平成23年 類似前身(H20年)	38,000千円	江戸町センタービル	看護師、保健師、社会福祉士、管理者、事務員	国がんの研修

8

都道府県	拠点数	がん相談体制での役割・特色
地域統括相談支援センター	宮城県	8 検診機関の特性を活かした（健康時から知ってもらう）相談窓口の紹介と対応。県内拠点病院以外を含む19カ所の相談窓口の一つとして機能・紹介。（県内には、相談支援の後方支援的役割を担う「東北大病院包括的がん医療推進室」がある）
	千葉県	13 県拠点より相談事業の拡充を目的として県に提案され県拠点病院内に設置。相談支援センターとの棲み分けが難しかったが、ピアサポート支援等、拠点病院や医療者が担うことの難しい支援や院外からのサポートにシフトしていくことになると考えている。
	富山県	7 富山駅から10分の徒歩圏内の社協の建物内に設置。まちなか、病院以外の公的施設、福祉との連携もしやすい。相談対応他、情報収集・提供（図書の設定、地域の療養情報作成・印刷手配等含）、ピアサポーターの養成、患者会支援、関係者の資質向上を行う。県拠点退任後の看護部長他、経験のある保健師が対応。
	山梨県	5 相談対応は予約受付で行う。相談対応者は委託先の医師（不定期）、保健師・看護師（毎週火）、ピアサポーター（毎週火）。県内で養成されたピアサポーターの受講生から派生した患者団体に相談対応の依頼を行っている。
	三重県	5 H20年1月～「三重県がん相談支援センター」として設置され、電話相談フォーラム運営など担う。相談窓口の他、多様な相談支援（グリーンケア、おしゃべりサロン）、患者会やサポーター活動支援などを行う。地域で暮らす患者・体験者の支援。

都道府県	拠点数	がん相談体制での役割・特色
地域統括相談支援センター	奈良県	5 拠点病院のない医療圏（南和）の保健所内に相談窓口を設置し、サロンも行う（3回/年）。運営スタッフは拠点病院から、予算は旅費のみ。
	山口県	9 病院ではない第三者的な機関として気軽に相談できるワンストップの窓口として県庁内に設置。まずは相談対応から。H26年7月の設置後間もないこともあり、連携先の開拓中。活動内容アドバイザーに山口大等の医療福祉関係者（医師4、専門看護師1、ケアマネ2、社労士1）
	高知県	3 患者支援団体への委託。「納得いく医療と巡り合う」ための支援として、希望に応じてとことん納得いくまで一緒に医師を探す（全国）。希望に応じて診察に同行（旅費は相談者負担）
	沖縄県	4 県拠点内に設置。県内の相談支援センターで担いきれないピアサポート機能の他、ピアサポーター養成、小児がん経験者への活動支援、希少がんの情報提供などの補完
	京都府	13 民間委託、ワンストップ窓口、オール京都の相談体制、地域連携の強化。0120のフリーダイヤルでの相談対応、保健所への出張相談。県職員が責任者で毎日カンファレンスに参加し、現場の相談状況を把握する。

都道府県	拠点数	がん相談体制での役割・特色
類似組織	石川県	5 在宅緩和ケア支援センター(H20年度～)を引き継ぎ、病院外へ設置。毎日立ち寄れる“サロン”に重きを置いた、患者や家族の“生活を支える”コミュニティづくり
	島根県	5 相談支援センターの運営面での後方支援。県内のがん相談支援センターや患者会、がんサロンの支援、教育研修の支援。県拠点の役割と兼務することで支援を効率化
	長崎市 (市内)	3 厚労省「がん緩和ケア」戦略研究(5年間)でできた「長崎がん相談支援センター」(H20年4月)および関連ネットワークを引き継ぐ市の事業(サービス)。県内のカルテ共有する「あじさいネット」、在宅医療登録医の「長崎在宅Dr.ネット」介護・福祉に関する相談の地域包括支援センターのランチとしての機能も持つ

11

内容		地域統括相談支援センター										類似組織		
「地域統括相談支援センター」(H23年度)構想前の既存組織から派生		宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ スタッフに比べアサヒター(サポーター)含</li> <li>■ 活動に比べアサヒター/サロン含</li> </ul>		宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市
設置場所	院内	宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市
	院外	宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市
担う役割	特定の役割	宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市
	マネジメント機能	宮城	千葉	富山	山梨	三重	奈良	山口	高知	沖縄	京都	石川	島根	長崎市

12

## 地域によって活動内容や展開方法はさまざま

- 活動範囲や内容は、各県で大きく異なっていた。
- 各地のがん対策事業の活性化やがん相談支援センターの活動の充実に伴い、平成23年度当初と比べて地域の中で充実すべき課題が変化し、地域統括相談支援センターに期待される活動内容や範囲が変化してきているようだった。
  - 平成23年度当初の「地域統括相談支援センター」の活動の全体イメージに示される包括的な（近い/目指す）活動を行っていたのは、3カ所（富山県、三重県、京都府）。その他は、一部の活動を担っていた。

13

## 地域によって活動内容や展開方法はさまざま

- 活動内容は、その県や地域での課題や力を入れたいところ、また委託先の組織や団体の特性によっても異なり、異なる展開の中でのそれぞれの工夫や地域の中での特性や強みを生かしたものとなっていた。
  - **宮城県**：宮城県対がん協会内に設置。同事業所内で行われているがん検診事業ですでに培われているネットワークを生かした広報活動を実施。
  - **富山県**：市内の社会福祉協議会内に設置。市民が立ち寄りやすい立地を生かした相談窓口の設置や設置前の行われた県内のがん診療連携拠点病院のがん相談支援センターのヒアリングを通して、がん相談支援センターが困難を抱えている広報活動などのとりまとめ役を行う。
  - **奈良県**：がん診療連携拠点病院の設置されていない相談対応空白地域のがん相談の充実を目的として、その地区の保健所で、県内の拠点病院の相談員らが定期的ながん相談やサロンを開催。

14

## 地域全体でのがん相談の充実と充実に に向けた役割や機能の変化

- ① 拠点病院だけでは担えない機能
- ② 拠点病院では担いにくい機能の充実
  - ・ 拠点病院内でなく、地域の中に置かれることの意味や活動範囲の違い
  - ・ 立地や立場を生かした活動
    - ・ 拠点病院のがん相談支援センターよりも、地域全体に対して行う活動がしやすく、働きかけやすくなることを期待
  - ・ 拠点病院間の活動のマネジメントやまとめ役の機能

15

## “利用者が安心して利用できる窓口であるか”

### ＝相談を受ける体制の前提として不可欠なポイント

- 相談を受けるというセンシティブな内容を取り扱う体制があるか
    - 個人情報の取り扱い
    - その場で対応しきれない場合や緊急時の相談対応の取扱い
  - 相談を受ける相談員の資質（の見極め）や教育・研修体制があるか
  - 相談員を支える体制があるか
- 
- 特に、拠点病院内ではなく、地域に置かれた窓口である場合には、一からその体制をつくらなくてはならない
  - 現在、地域統括相談支援センターの相談員に研修を受けるなど教育的な条件などの縛り、また相談員人数の設置基準や置かれる場所等についての要件はない
    - ・ たとえば拠点病院であれば多くの診療上、施設上の要件を満たしており相談員が利用できる資源の多くが存在すると予測される
  - 要件等（最低限の条件）を含め、少なくとも利用者が安心して利用できる相談体制を整備し、それらをわかりやすく市民に公開していくことも必要

16

# 富山県がん相談支援センター — 設置の経緯と役割 —

富山県厚生部 健康課がん対策推進班  
 班長 坂口 実

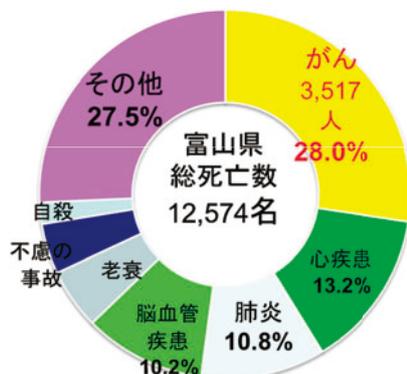
## 富山県のがんを取り巻く現状

富山県: 富山市を中心に半径50km  
 まとまりのよい地形が特徴  
 人口(H25) 1,076,158人(高齢化率 28.7%)

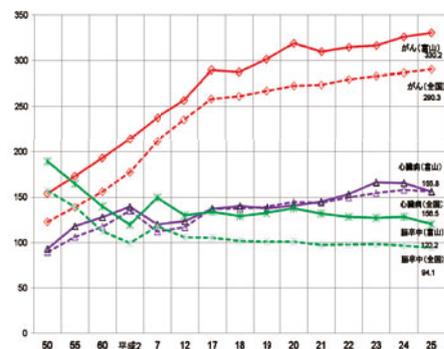


富山県

### 平成25年 がんの死亡等の状況



### がんの死亡率の推移(人口10万対)



## がん総合相談支援センター設置までの経緯

平成24年12月 議員提案で「富山県がん対策推進条例」が制定された

### 富山県がん対策推進条例(H25年4月1日施行)

#### 施策の基本となる事項

- ① がんの予防及び早期発見の推進
- ② 良質かつ適切ながん医療の提供
- ③ **がん患者及びその家族の苦痛の軽減並びに療養生活の質の維持向上**
- ④ がんになっても安心して暮らせる社会の構築

第20条「相談支援体制の整備」が明示

### 富山県がん対策推進計画(H25年度～29年度)

#### 重点的に取り組むべき課題

1. 予防の強化と早期発見の推進
  - ・ がん予防の強化(たばこ対策、女性のがんへの対策等)
  - ・ がんの早期発見の推進(働く世代の検診受診率向上等)
2. 質の高い医療の確保
  - ・ 集学的治療のさらなる充実と専門的医療従事者の育成
  - ・ がんと診断された時からの緩和ケアの推進、がん登録の推進
3. **患者支援体制の充実**
  - ・ **相談支援体制の充実**、就労支援、小児がん対策など

「地域統括相談支援センター」の設置が明文化

3

## がん総合相談支援センター(H25. 9月開設)の概要

### 委託先

富山県社会福祉協議会(各種福祉サービス、相談活動、ボランティアや市民活動への支援等、地域の福祉増進に取り組んでいる)

### 設置趣旨

医療をはじめ在宅療養や介護、就労など、がんに関する様々な相談対応や情報提供を行う県民に身近な総合相談窓口

#### <コンセプト>

- ・ 中心市街地「街なか」で、気軽に利用できる
- ・ 病院以外の**公的施設**
- ・ **社会福祉系の相談機能との連携**  
(年金相談、法律相談、介護他)

### 職員

H25年4月～  
統括相談員 看護師(元県がん連携拠点病院看護部長)  
相談員 保健師(元市町村保健センター所長)  
H26年4月～  
相談員 保健師(元県保健所保健予防課長)

### 予算

27年度予算 15,401千円(都道府県健康対策推進事業国庫補助)

4



## がん総合相談支援センター（H25. 9月開設）の概要

### 開設までの準備

- ・平成23年度から県外の統括相談支援センターの視察
- ・拠点病院の相談支援センターとの調整・情報収集
- ・センターの普及啓発、ピアサポーターの養成研修の企画 等

### 業務内容

- ① 相談（面接、電話）
- ② 情報収集・提供
- ③ 患者・家族の交流支援  
（小児がん講演会等の開催）
- ④ ピア・サポーターの養成・活動支援



### 相談体制

受付時間 月曜日～金曜日 9時～16時  
土曜日 13時～16時

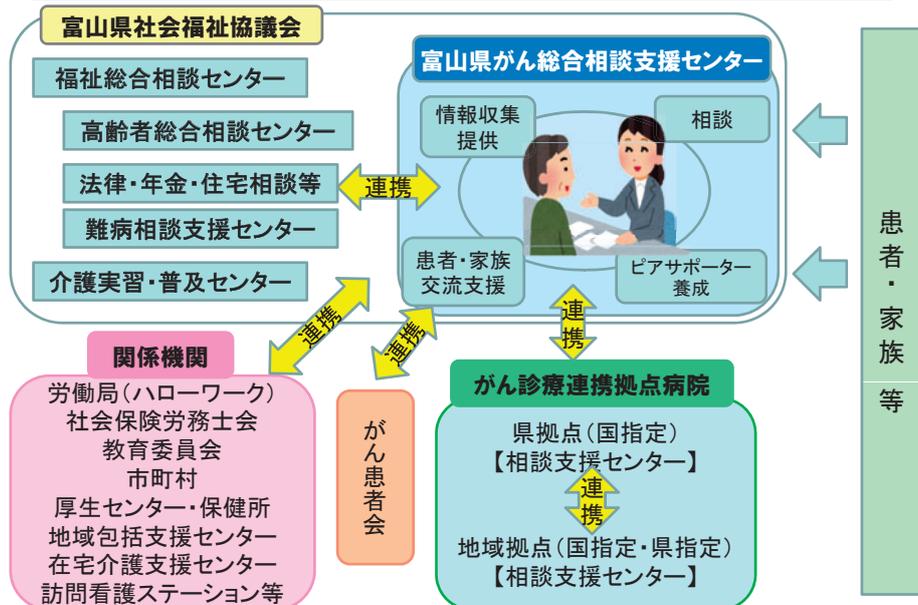
### 連携機関

県労働相談・労働局・ハローワーク 他  
がん診療連携拠点病院



5

## がん総合相談支援センターと関係機関との連携



6

## がん総合相談支援センターの役割と今後の方向性

1 がん診療連携拠点病院の**がん相談支援センターと連携し**、がん相談を推進

2 **各病院で対応することが困難な全県的な調整等**

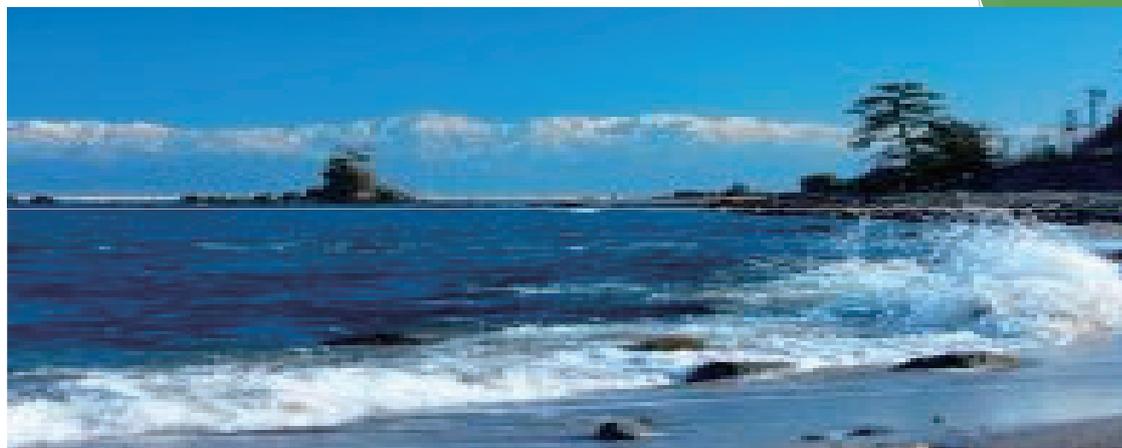
- 1)ピアサポーターの養成と活動支援
- 2)各がん診療連携拠点病院の患者会以外のがん患者団体等
- 3)がん教育におけるがん経験者を講師として派遣調整
- 4)各拠点病院に労働局等との連携体制などの情報提供

3 **がん相談の普及啓発**

- 1)がん対策に関する協定締結企業での研修会
- 2)市町村健康づくりボランティア研修会 等

4 **相談員の資質向上**

- 1)相談支援センター相談員の情報交換会
- 2)県がん診療連携拠点病院と連携した研修会 等



## 富山県がん総合相談支援センターの活動状況

1

### 富山県がん総合相談支援センターの主な業務



2

**相談体制** 相談員 3 名（看護師 1 名、保健師 2 名）、事務員 1 名  
**相談件数** (平成26年度)

<b>1. 相談延べ数</b>	<b>1 0 0 2 (平均 約83件/月)</b>
うち面談	6 9 5 69.4%
電話	3 0 7 30.6%
再利用者	6 2 6 62.5%
<b>2. 相談経路</b>	<b>パンフレット、ラジオ、テレビ、新聞等 201 (20.0%)</b>
家族、友人、知人等	99 (9.9%)
病院等の施設から紹介	35 ( 3.5%)
インターネット	17 ( 1.7%)
以前相談したことがある	626 (62.5%)
その他	24 ( 2.4%)

3

### 3. 主な相談内容

	主な相談内容	件数
医療	治療や検査に関すること	137
	症状・副作用・後遺症とその対処	106
	ホスピス・緩和ケア	15
	セカンドオピニオン	4
	医療者とのコミュニケーション	25
生活	日常生活(食事、運動、入浴、外出等) 介護・療養等	79
	医療費、生活費、社会保障	8
	就労	22
心理	不安や精神的苦痛	163
その他	ピアサポーターに関すること	118
	患者会・家族会	96
	経過報告	100
	グリーフケア	37
	その他	92

4

## 相談員の姿勢

- 1 どんな相談も受けとめる
- 2 混迷をほぐす、自己決定を支援する  
「自分の状況を知る・理解する」  
「医療者とよりよい関係をつくる」  
「自分を大切に」
- 3 患者・家族と医療者とのコミュニケーションを支援する
- 4 相談者とのかかわりを大切にする
- 5 他機関との連携

5

## がんピアサポーターの養成等

1. 養成講座 6回／1コース 定員：20名

年度	受講者	修了者	活動同意者
25年度	30名	29名	28名
26年度	25名	16名	16名



2. フォローアップ研修

	実施日	内 容	参加人数
1	4月26日	がん総合相談支援センター事業について 26年度がんピアサポーター活動について	24名
2	8月3日	講義と実技 「ピアサポートでの上手な声のかけ方、話の聴き方」 講師 高岡市民病院 臨床心理士 高野 利明氏	21名
3	27年 3月8日	講義「がんピアサポーターの役割と心構え」 グループワーク「ピアサポーター活動の実践と課題」 講師 滋賀県がん患者団体連絡協議会 会長 菊井 津多子氏	16名

6

## がんピアサポーターの活動

### サポート活動

- 1 交流サロン 毎月第4土曜日（サロン+ミニ講座）  
ピアサポーター4名で進行 振り返りを行う  
ピアの意見を次回のサロンに活かす。
- 2 がん診療連携拠点病院でのピアサポート  
（第1・3の木曜日）
- 3 がん診療連携拠点病院でのサロン（2施設）
- 4 がん教育授業における体験談  
（小学校、中学校、高等学校 5校へ）



がんピアサポーターの方々とセンター職員



がん診療連携拠点病院でのがんピアサポート

7

## がん相談の質の向上と連携

### 富山県がん総合相談支援センター



### がん診療連携拠点病院

- 1 がん相談員との連携
  - ①情報交換会 2回／年
  - ②相談員研修会
- 2 ピアサポーター養成・活動
  - ①ピアサポーター養成講座講師（依頼）
  - ②サロンの進行等（派遣）
  - ③がん体験者による個別相談（派遣）
- 3 がん診療連携協議会 相談支援部会2回／年

8

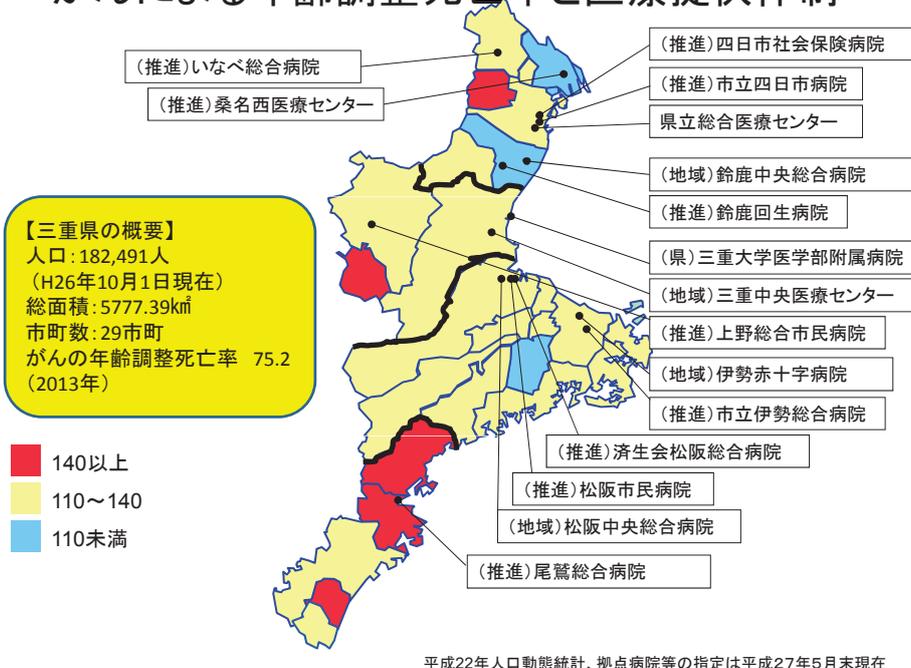
平成27年8月26日

## 三重県がん相談支援センター運営事業について ～設立の経緯と今後の課題～

三重県健康福祉部医療対策局  
健康づくり課 課長 加太 竜一

1

## がんによる年齢調整死亡率と医療提供体制



2

## がんによる年齢調整死亡率の推移

	2008		2009		2010		2011		2012		2013	
	都道府県	値										
1	長野	72.4	長野	71.1	長野	67.3	長野	69.4	長野	68.6	長野	66.1
2	熊本	78.1	山梨	73.5	滋賀	75.0	岡山	73.5	滋賀	69.2	滋賀	70.6
3	滋賀	78.3	福井	74.9	福井	77.0	香川	73.5	福井	69.6	福井	71.0
4	福井	78.4	三重	74.9	沖縄	77.3	福井	74.3	徳島	73.3	熊本	71.5
5	岡山	78.4	香川	75.4	三重	77.4	滋賀	74.7	三重	73.5	山梨	72.3
6	三重	79.3	熊本	75.6	大分	77.4	熊本	74.8	山梨	73.8	大分	72.4
7	岐阜	81.0	岡山	75.7	山梨	78.2	大分	77.2	香川	74.2	石川	74.6
8	岩手	81.3	大分	76.1	熊本	79.3	岐阜	78.2	熊本	74.6	岡山	74.8
9	香川	81.3	沖縄	77.9	岡山	79.4	三重	78.5	奈良	75.8	三重	75.2
10	愛媛	81.5	広島	78.1	香川	79.5	島根	78.6	石川	76.1	富山	75.3

▼三重県は比較的死亡率が低い状態で推移している。

出典：国立がん研究センター 3

## 三重県のがん対策

### 三重県がん対策推進条例

(平成26年4月公布・施行)

▼がん戦略プランをベースとして、関係者が一体となりがん患者等の視点に立ったがん対策を推進するために条例を制定

#### がんの予防・早期発見

**がんの予防及び早期発見の推進(第9条)**  
がんに関する正しい知識の普及啓発、早期検出を防止、がん検診の受診率の向上及びがん検診の質の向上等

**がんに関する教育(第10条)**  
児童及び生徒の発達段階に応じて、がんに関する理解及びがんに関する正しい知識を深めるための教育が行われるよう必要な取組を行う



#### 医療基盤の整備

**小児がんに係る対策の充実(第12条)**  
小児がん及び小児がん患者の医療の提供、医療機関及び小児がんの医療に携わる関係機関の連携及び協力等

**医科歯科連携の推進(第13条)**  
がん医療を効果的に実施するため、医師及び歯科の医療の連携を推進するために必要な取組を講ずる。



#### 療養・予後の充実

**緩和ケアの推進(第16条)**  
がんと診断されたときからの医療従事者による緩和ケアの推進、緩和ケアに関する知識及び技能を有する医療従事者等の育成及び確保。

**がん患者等への支援(第18条)・就労の支援(第19条)**  
がん患者の就労状況の向上に資するよう、相談及び情報の提供その他の必要な施策を講ずる等



- ・H16年  
「三重県がん対策戦略プラン」策定
- ・H20年  
「三重県がん対策戦略プラン改訂版」策定(がん対策基本法に基づく都道府県がん対策推進計画として位置付け)
- ・H25年  
「三重県がん対策戦略プラン第2次改訂」策定
- ・H26年  
「三重県がん対策推進条例」施行

**がん患者等への支援(第18条)・就労の支援(第19条)**  
がん患者の就労状況の向上に資するよう、相談及び情報の提供その他の必要な施策を講ずる 等

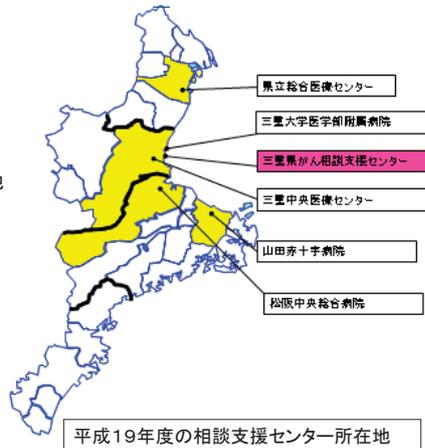
4

## 三重県がん相談支援センター設立の経緯

- ・三重県内にがん専門の医療機関がない
- ・拠点病院での相談は、自院の患者が大半
- ・広域レベルでの情報収集を望むがん診療連携拠点病院がん相談支援センター相談員の声
- ・第三者的な立場での相談支援機関の設置を求める患者会の声
- ・地形が南北に長く、がん診療連携拠点病院の所在地の偏り(拠点病院とかかわりを持つことのできる患者は限られている)



以下の機能を持った窓口が必要  
 第三者的な立場での相談支援機能  
 広域的な相談支援体制の整備



◆拠点病院の相談支援センターでの取組が不十分な項目について、三重県がん相談支援センターが対応していくことで独自性を確立し、**双方の機関が連携することで患者や家族にとって真に必要な支援が受けられる体制を目指す**こととなる。

5

## 三重県がん相談支援センターの概要

### 【目的】

患者やその家族から、治療内容や医療費、心理的な不安など様々な相談を受けるとともに、併せてがんに関する情報提供を県民及び医療関係者に対して行うことで、がん患者等のQOLの向上を目指す。

### 【開設日時】

月曜日～金曜日(祝日を除く)、第1日曜日(翌日の月曜日は休み)  
 9:00から17:00まで(相談受付16:30まで)

### 【設置場所】

三重県津庁舎(保健所棟)

### 【運営】

三重県健康管理事業センターへ委託(日本対がん協会 三重県支部)

### 【設置年月】

平成20年1月

### 【現在の主な事業内容】

相談支援  
 患者・家族交流のためのサロン開催  
 遺族支援のサロン開催  
 サポーター研修会開催(ボランティア養成)  
 療養情報の発信  
 患者会支援



6

## 充実した相談支援体制に向けて ～問題点・課題～

- 県内の相談支援体制の充実による、三重県相談支援センターの機能の再検討の必要性
- 南部地域の資源の不足  
→サロンの拡大などによるがん患者の不安の軽減を図る
- 相談環境の充実

7



相談内容 (平成21~26年度)	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
がんの治療	193	178	177	166	183	189
がんの検査	67	70	47	45	67	54
症状・副作用・後遺症	82	81	59	42	49	73
セカンドオピニオン	52	31	43	28	43	31
治療実績	0	11	0	1	2	7
受診方法	14	9	3	3	2	2
転院	15	16	11	17	30	13
医療機関の紹介	58	81	58	50	50	45
がん予防	23	19	21	10	9	7
在宅医療	23	29	13	8	15	10
ホスピス・緩和ケア	35	37	27	11	29	26
症状・副作用・後遺症への対応	59	50	57	86	95	39
食事・服薬	30	28	23	26	35	27
介護看護養育	4	5	9	4	7	1
社会生活	10	10	13	17	36	36
医療費	56	58	57	61	50	46
補完代替療法	20	27	22	14	15	6
不安・精神的苦痛	282	316	322	313	364	257
告知	12	6	10	3	9	6
医療者との関係	92	49	53	56	66	100
患者家族間	33	44	29	48	65	54
友人・知人	4	6	25	10	11	16
患者会	70	60	65	63	76	79
経過報告	37	47	65	80	52	99
グリーフケア		7	12	22	37	38

平成27年度おしゃべりサロン・おあしす 時間13:30～15:30

	日程	場所	共催	開設日
津サロン	毎月 第2木曜日	保健所棟1F 社会復帰室		平成20年6月
伊勢サロン	毎月 第3木曜日	いせ在宅クリニック 縁(えにし)の家	伊勢赤十字病院	平成22年7月
伊賀サロン	奇数月 第1木曜日	伊賀市保健センター 多目的室	岡波総合病院 上野総合市民病院	平成22年7月
四日市サロン	偶数月 第1木曜日	四日市市総合会館内	市立四日市病院 県立総合医療センター 四日市羽津医療センター 四日市市	平成22年10月
鈴鹿サロン	2015年 5/29(金) 8/24(月) 11/16(月) 2016年 2/8(月)	鈴鹿市保健センター2 F 健康教育室	鈴鹿回生病院 鈴鹿中央総合病院	平成24年12月
桑名サロン	2015年 6/29(月) 9/28(月) 11月 2016年 3月	桑名市民会館	桑名東医療センター 桑名西医療センター 桑名市	平成26年11月
グリーフケア おあしす	毎月 第4木曜日	保健所棟1F 社会復帰室		平成22年7月

3

参加者の声... (平成25年4月～平成27年6月)

- ・ とても楽しく、自分だけではないと思った。
- ・ 皆さん前向きで、いろんな話ができよかった。
- ・ 話をする機会が、少し気持ちを軽くしてくれた。
- ・ つらかった事など、思っていたことがそのまま話す事ができてよかった。
- ・ 同じがんの方にお会いし、気持ちが心強くなった。
- ・ 同じ病気の人のお話を聞かせてもらって良かった。

など

4


**三重県がん相談支援センター**
HOME 文字の大きさを変更する: **小** **中** **大**

---

**がん相談 電話・面接 (無料)**

**専用電話**  
**059-223-1616**

詳しくは[こちら](#)をご覧ください

**三重県がん相談支援センターとは**

事業案内

交通・アクセス

**がんに関するいろいろな情報**

**患者必携**

- がんと向き合うために～三重県の療養情報(PDF1.28MB)(2014.03更新)
- 記録ノート
- がんになったら手にとるガイド(がん療養情報)



がんを知り、がんと向き合い、がんに負けないために

患者必携

がんと向き合うために  
(三重県の療養情報)



**新着情報**

- 6月15日:地域のイベント情報を更新
- 6月11日:イベント情報を更新しました

**イベント情報**

- 7月 8日:がん患者と家族の方の「
- 7月 5日:毎月第1日曜日はがん相
- 7月 2日:がん患者と家族の方の「

5

## サポーター研修会・プチフォーラム

ボランティアの役割についてのお話をいただきました。



**傾聴のお話の後、グループに分かれて、ロールプレイもしました。**



病院見学

- \* 患者・家族の交流会「おしゃべりサロン」の運営
- \* プチフォーラム(勉強会や展示会)開催のサポート
- \* 広報活動(地域や周りの方への周知、ちらしの配布、ピンバッチ募金活動)
- \* 情報提供発送等のお手伝い
- \* 絵を楽しもう、えがおの会、タオル帽子作り、おしゃべりパーティーなどの活動を企画

6

## ピンバッチ がん患者と家族を応援します。



300円以上募金いただいた方にお配りしています。



がんを知り、がんと向き合い、がんに負けないために・・・

7

「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウム

## 沖縄県地域統括相談支援センター の活動について

沖縄県地域統括相談支援センター  
(琉球大学医学部附属病院がんセンター)

増田 昌人

1

### 沖縄県地域統括相談支援センターの概要

1. 沖縄県が、2011年度「厚生労働省がん医療連携体制推進事業」を利用。都道府県がん診療連携拠点病院(以下、拠点病院)である琉球大学医学部附属病院(以下、琉球大学病院)がんセンターへの委託事業。2012年度以降は、「沖縄県地域統括相談支援センター事業」として継続
2. 予算:868万円(2011年度), 1,100万円(2012年度), 1,200万円(2013年度), 844万円(2014年度・2015年度)
3. 2011年10月琉球大学病院外来棟3階に開設
4. 職員:センター長(兼任), 事務職員1名(40時間非常勤職員), ピアサポーター(看護師)1名(40時間非常勤職員)の3名で活動開始(～2015年3月)。2015年4月からは、3名のピアサポーターが週1回4時間ずつ相談を行っている

2

## 沖縄県のがん相談における当センターの役割と業務

- 沖縄県では、拠点病院及び県指定準拠点病院の6病院にがん相談支援センターがあり、相談業務等を行っている
- 当センターは、県拠点病院に設置されたセンターなので、**がん相談支援センターを補完する活動**を行う
- 具体的には、
  - ① **がんピアサポート**
  - ② **がんピアサポーター人材育成**
  - ③ **小児がん経験者への活動支援**
  - ④ **がん患者の就労支援**
  - ⑤ **希少がん、難治がん、小児がん患者への情報提供**

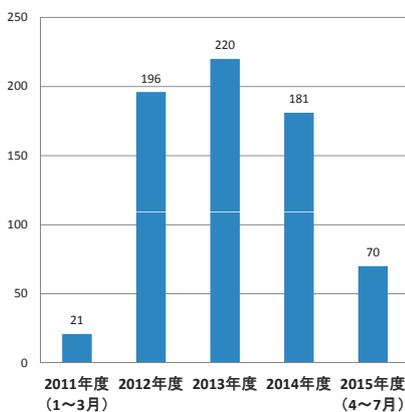


3

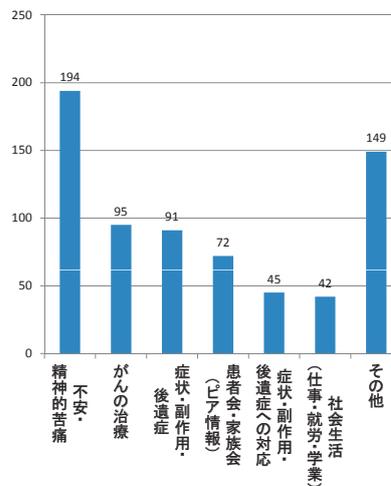


## がんピアサポート

相談件数



相談内容



4

## がんピアサポーターの人材養成

### がんピアサポーター養成講座（修了生 合計44名）

2011年11・12月	第1回養成基礎講座	参加11名	修了7名
2012年1・2月	第2回養成基礎講座	11名	9名
2012年10・11月	がんピアサポート初級編（試行版）研修会	29名	14名
2013年10月	がんピアサポート研修会	19名	14名

### がんピアサポート フォローアップ研修会

2012年7月	第1回	参加51名	修了51名
2013年9月	第2回	44名	44名
2015年10月（予定）	第3回		



5

### 修了生の活躍の場の提供

- 1 琉球大学病院でのピアサロン
- 2 那覇市立病院でのピアサロン
- 3 沖縄県庁ロビーでのピアサロン
- 4 ジュンク堂（大型書店）でのピアサロン

## 小児がん経験者の会「Ti-daわらば一む」

- 2013年5月に、当センターが呼びかけて開始。県内小児がん経験者3名がコアメンバーとして集結し、隔月に交流会をスタートした
- 当事者同士が集い、病気のことや学校・就労、将来についての悩みや課題を語り支え合うことや情報の発信、小児がんに関する様々な問題を考えることを目的
- 奇数月第3日曜日13時～15時に開催し、毎回6～7名が参加
- 当初は、当センタースタッフが運営を行い、徐々に会員に引き継ぐ。軌道に乗ってきたので、今年度は当センタースタッフは見守り役

▼経験者と保護者の交流



▼小児がん患者との交流  
魚釣りゲームコーナーの様子



▼ビーチパーティのときの様子



6

## がん患者の「就労のためのカフェ」の開催

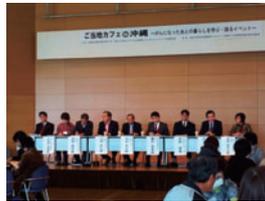
- 2014年1月に、当センターと国立がん研究センターがん対策情報センターが開催。75名が参加

### ＜プログラム＞

1. がんと就労をテーマに専門家が講演
2. ステークホルダーによる沖縄県における働くがん患者の現状報告
3. カフェタイム  
お茶をしながら、仕事や日常生活のことをみんなで話そう(グループワーク)
4. 全体発表

### 討論に参加したステークホルダー

- 1 沖縄県がん患者会連合会 事務局長
- 2 沖縄県福祉保健部医務課 課長
- 3 沖縄県商工労働部雇用政策課 班長
- 4 沖縄労働局職業安定部 部長
- 5 那覇商工会議所 専務理事
- 6 沖縄県商工会連合会 専務理事
- 7 連合沖縄 副事務局長
- 8 琉球大学病院医療福祉支援センターMSW
- 9 琉球大学公衆衛生学 教授・産業医



7

## センター設置の効果と課題

### ＜効果＞

- がんピアサポートを業務の中心に据えたことにより、拠点病院のがん相談支援センターとの棲み分けができた
- これまで、沖縄県では断片的に一部のがん患者会で行われていたピアサポートを、拠点病院の中ではあるが、恒常的に実践する場を作ることができた

### ＜課題＞

- がんピアサポートが、拠点病院の医療職の中にさえも市民権を得ていない
- 就労支援や希少・難治・小児がんの情報提供等も、沖縄県内のがん患者関係者だけでなく、医療者への周知が不十分である

8

地域統括相談支援センターに類似した組織から始めた自治体の報告  
 京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長  
 京都府がん総合相談支援センター長  
 吉田 万里子

「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウム  
 平成27年8月26日

## 京都府がん総合相談支援センターについて

京都府健康福祉部健康対策課  
 がん総合対策担当課長 吉田万里子

1

## 京都府の概要

○人口:約263万人(京都市 約147万人)

○市町村数:26

○がん死亡者数:7,649人  
 (全死亡25,332人の約30%、H25人口動態統計)

○がん罹患患者数:18,798人  
 (2011年 京都府地域がん登録)

[府内のがん診療連携拠点病院等]

- 都道府県がん診療連携拠点病院
  - 地域がん診療連携拠点病院
  - 地域がん診療病院
  - 京都府がん診療連携病院
  - 京都府がん診療推進病院
- 国指定:13、府指定:8



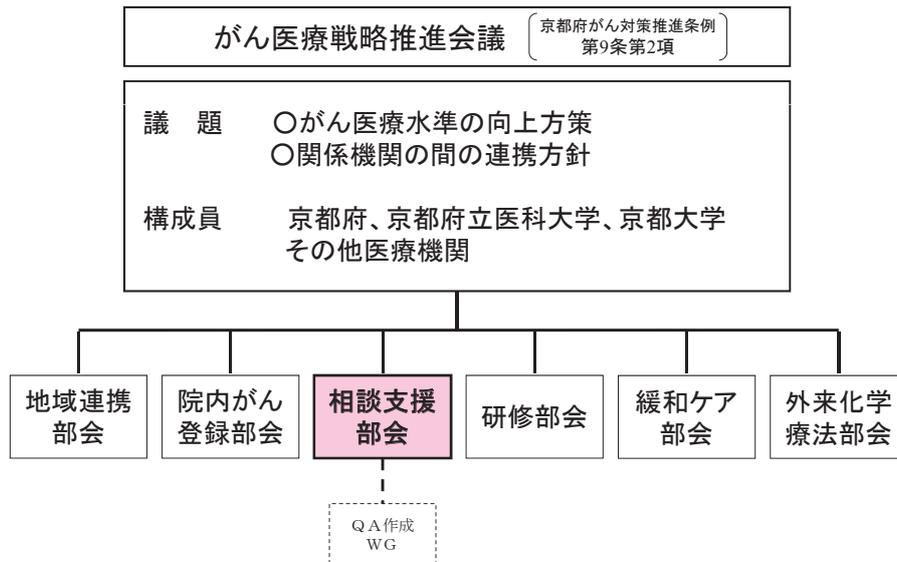
2

# 京都府のがん対策の体系



3

# がん医療戦略推進会議の組織について



4

## 京都府がん総合相談支援センター

### ○設立の経緯と趣旨

- ・平成23年3月「京都府がん対策推進条例」
- ・平成25年3月「京都府がん対策推進計画」  
「がんになっても安心して暮らせる社会の構築」

本日で3年目を  
迎えました！

### [趣 旨]

病院に相談しにくい医療従事者への不満やセカンドオピニオンの希望、不安など、心の問題や経済的・生活の問題への対応は不十分な状況にあるため、拠点病院とは別に総合相談窓口を開設。

### [基本コンセプト]

寄り添い型支援、オール京都体制、地域連携の強化

5

## 京都府がん総合相談支援センター

### ○予算

- ・25年度: 35,000千円  
京都府雇用対策事業(重点分野雇用創出事業)
- ・26年度: 26,700千円  
一般財源1/2、都道府県健康対策推進事業補助金1/2
- ・27年度: 26,700千円  
一般財源1/2、都道府県健康対策推進事業補助金1/2

### ○実施主体

京都府

\* 相談センター運營業務は、委託事業者を公募し選定

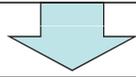
6

## 京都府がん総合相談支援センター

### ○相談体制

京都府健康福祉部健康対策課

○センター長・事務担当者2名(兼務)



京都府がん総合相談  
支援センター(相談員3名)

○シフトを組み常時3名が常駐  
(看護師2名、保健師2名、ピア3名)

### ○活動状況

[通常の相談対応]

・日常生活・経済問題、不安・精神的苦痛、症状・副作用等

[出張相談] ・府内7保健所 月1回

・イベントと連携して実施 年10回程度

7

## 京都府がん総合相談支援センター

(広報チラシ:出張相談分/通常分)



8

## 京都府がん総合相談支援センター

### ○地域統括相談支援センターとして

[府内での位置づけ] 府内21拠点病院等との連携・調整  
京都府がん医療戦略会議相談支援部会の事務局を担当

- ・相談員の質の向上と対応の均てん化  
→ がん相談員のための相談支援マニュアル作成
- ・医療機関、行政機関、患者団体等の情報収集  
→ 京都府がん情報ガイド作成
- ・就労についてハローワーク及び拠点病院等と連携  
→ 京都労働局の長期療養者就労支援担当者連絡協議会に参画

9

## 京都府がん総合相談支援センター

(相談支援マニュアル／がん情報ガイド)



10

## 京都府がん総合相談支援センター

### ○平成26年度の相談実績

1. 相談件数等 1,410件、月平均117.5件  
(平成25年度は423件、月平均約60件)
2. 相談者の続柄 患者本人53%、家族33%
3. 相談者の性別 初回 女性:65%、男性:35%
4. 平均相談時間 19.7分(フリーダイヤル 相談時間の制限なし)
5. 相談の疾患部位  
大腸・小腸:13%、乳房:13%、肺:12%、リンパ・血液:10%、胃:9%
6. 相談内容 約6割が生活相談等

11

## 京都府がん総合相談支援センター

総合相談支援センターと京都府内の都道府県がん診療連携拠点病院の相談内容比較

		総合相談支援センター		都道府県がん診療連携拠点病院		
相談件数(件)		1,410		2,062		
相談内容 (内訳・%)	医療情報等	がんの治療	33.9	9.5	61.0	15.8
		医療機関の選択		4.9		11.3
		症状・副作用・後遺症		10.7		5.6
		在宅医療・緩和ケア・ホスピス		2.4		3.8
		がんの検査		3.6		1.6
		セカンドオピニオン		2.8		22.9
	生活相談等	日常生活・経済問題 (食事、介助、就労、生活費等)	60.2	24.8	28.6	10.5
		家族等との人間関係		4.7		1.8
		医療者との関係・ コミュニケーション		6.7		3.3
		不安・精神的苦痛		22.8		10.1
		患者会・家族会		1.2		3.1
		その他		5.8		5.8

(平成26年度)

12



# 京都府 がん総合相談 支援センター

【受付時間】月～金（祝日・年末年始除く） 9:00～12:00 / 13:00～16:00

 0120-078-394

おなやみ(き)くよ



## 京都府がん総合相談支援センター

京都市南区東九条下殿田町 43 番地 メルクリオ京都 201 号室  
建物の2階、エレベーターを降りて左手にございます。

### アクセス

- ・京都市営地下鉄烏丸線 九条駅 4 番出口より西へ徒歩約 3 分
  - ・近鉄京都線 東寺駅より東へ徒歩約 10 分
- ※併設駐車場はございません。  
近隣のコインパーキングをご利用ください。

ホームページ <http://www.gansoudan-kyoto.jp>

13

御清聴ありがとうございました



健診は愛

検索

14

## 患者からみた「がん相談」への期待 ～相談支援センター10年を振り返って～

「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウム

2015年8月26日

読売新聞社会保障部次長 本田麻由美

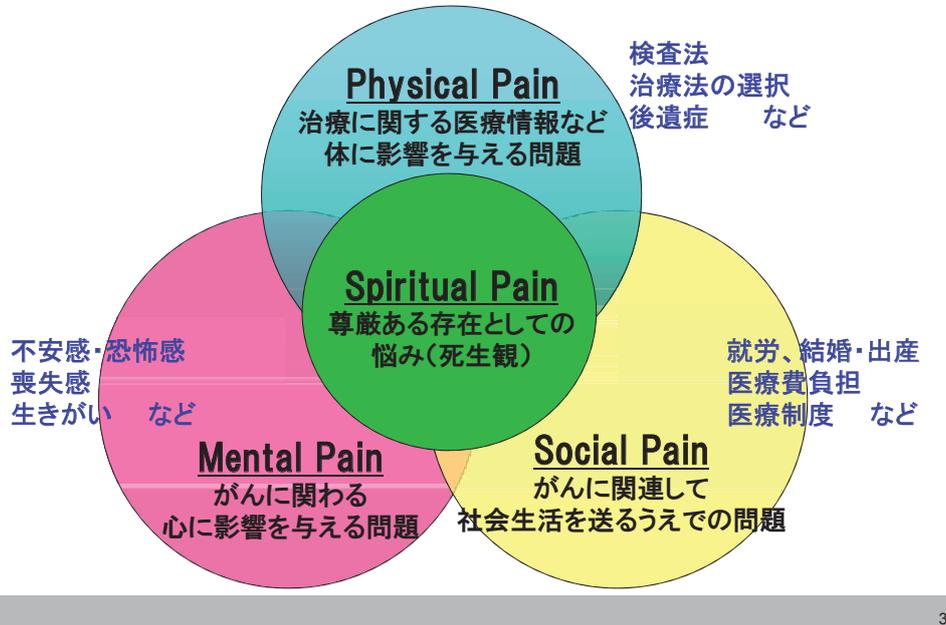
1

### 自己紹介

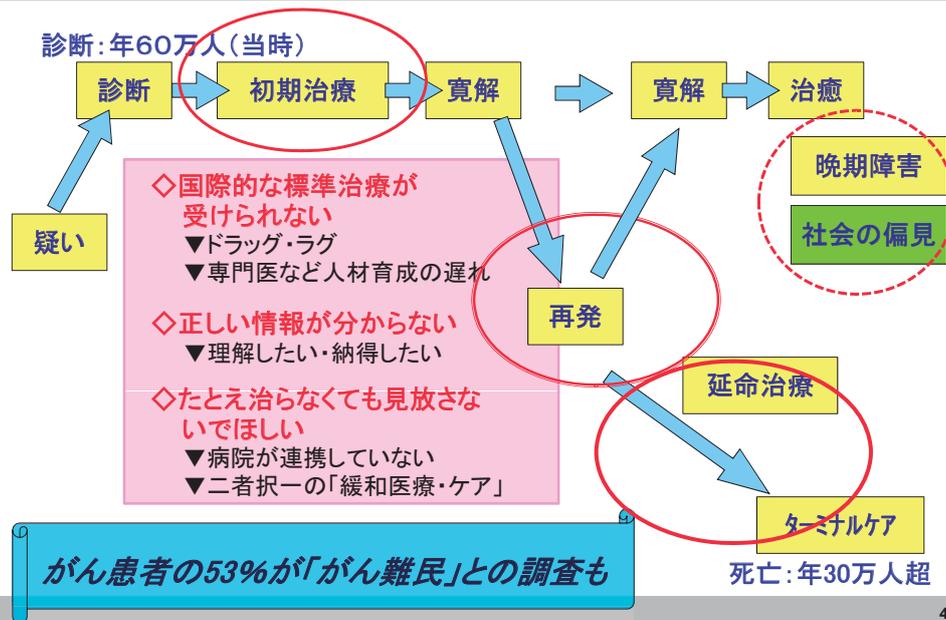
- 1991年 読売新聞社入社  
東北総局、地方部厚生省担当、医療情報部
- 2000年 東京本社編集局**社会保障部**記者  
– 主に2000年にスタートした介護保険、医療制度問題を担当
- **2002年5月 自身の乳がん発覚**  
– 3度の手術、放射線治療、抗がん剤治療、ホルモン治療に、「うつ」も経験
- 2003年 4月 本紙朝刊で連載コラム「患者・記者の視点」開始
- 2004年 4月 「がんと私」に改題（～09年6月）
- 6月 欧NPOの「Cancer Enlightenment 2004 Special Award」を受賞
- 10月 「ファイザー医学記事賞」を受賞
- 2013年10月 連載「認知症 明日へ」で「同医学記事賞大賞」受賞
- 2014年 8月 食物アレルギー発症

2

## 患者が抱える4つの“苦痛”



## “がん難民”の社会問題化



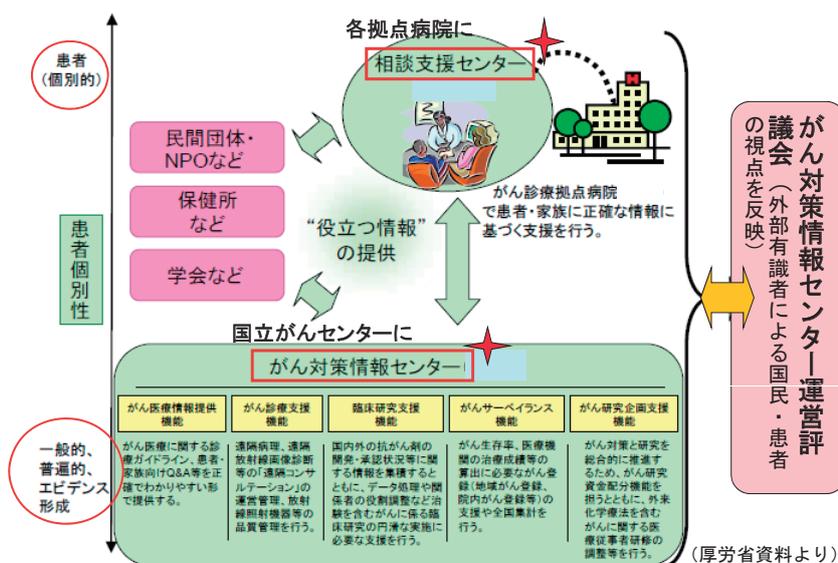
## 行政の背中を押す

- 2005年3月 患者団体と厚労省担当課が意見交換会  
患者団体が、①がん政策の司令塔「がん対策本部」  
②患者主体の「がん情報センター」 など訴え
- 2005年5月 厚労省に「がん対策推進本部」設置
- 2005年7月  
「がん対策推進  
アクションプラン2005」
  - 「がん対策基本戦略」の策定
  - 情報ネットワークの構築  
06年 8月「相談支援センター」  
06年10月「がん対策情報センター」
  - 「がん対策情報センター  
運営評議会」の設置へ



5

## がん情報ネットワークの構築(2006年)



6

## 「地域統括相談支援センター」って何？

### ➤ 「相談支援センター」の役割

- 誰でも(病院にかかっていなくても)無料で相談できる
- 電話でも、訪問でも、匿名でも
- がん対策情報センターで研修した相談員(看護師、MSW等)が対応
- がん患者団体と連携・協力も

### ➤ 実際には？

- 敷居が高い。病院にかかってないと相談できないと思われがち
- 逆に、病院の医師に伝わらないか不安で本音を話せない
- 何をどう相談していいか？
- 相談員の質が不十分。何でも対応できる訳でない(治療の選択、療養生活上の不安、金銭、就労等)

### ➤ 「地域統括」誕生の背景

- 病院の外(地域)に相談支援センターを設置してほしい(病院内だと本音で相談できない)
- ピアサポーターがいて(養成も)、何でも相談できる場所が欲しい

### ➤ 実態は？

- 10か所の運営形態、相談支援体制は様々
- うまく活用できている所もあれば、もう一つの場合も・・・

- ・必ずしも病院外にある訳でもなく、病院の相談支援センターでもがん患者と連携しており、違いがよく分からない
- ・そもそも、都道府県拠点病院で行えばいいことでは？

7

## 今後の方向性として

- まずは、都道府県拠点病院の「がん相談支援センター」が、**県内の医療機関の相談支援の質向上に向けて責任を持って取り組む**
- 都道府県相談支援センターでできない場合などは、**「地域統括相談支援センター」と連携して取り組む**  
ex. 予算を取って人をつけるとか、ピアサポーター養成・ピアサポートの実施なども
- これからの「がん相談支援」は、「がん」だけでなく、**超高齢社会に応じた「認知症」「在宅医療」などの相談対応が必須に！**

8

---

厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウムプログラム

発行 平成 27 年 8 月 26 日

発行元 〒100-0006 東京都千代田区有楽町 2-5-1 有楽町センタービル（マリオン）13 階  
公益財団法人 日本対がん協会 (<http://www.jcancer.jp/>)

---

## シンポジウムでの質問・意見の概要

シンポジウムの参加者（127人）に質問用紙に記入してもらった形式で質問・意見を募ったところ、35人からのべ55件の回答があった。質問・意見の内容の内訳は、地域統括相談支援センターの機能に関する質問・意見が最も多く、17件、次いでピアサポーターに関する質問・意見が15件、地域統括相談支援センターや相談支援センターの広報に関する質問・意見が5件、関係機関との連携に関する質問・意見が5件、その他が13件だった。

このうち、自由記載された主な意見は以下の通り。

- ・拠点病院内の相談支援センターや院内サロンと、地域統括相談支援センターの違いがまだはっきりしません。
- ・地域統括相談支援センターにとっての大きな課題は、医療従事者・患者・一般の方への認知度向上と思う。
- ・ピアサポート活動が各地で始まっているが、まだまだ特定の代表選手による開催のように見受けられる。
- ・ワンストップ機能を持たせるには、行政や病院だけでは限界がある。
- ・ワンストップと叫びつつ、逆に分断するような状況も見受けられる。
- ・がんと診断された時から、“ここに寄ってみて”的でいいと思うが、相談場所を提示して頂くことから、始めてほしい。
- ・(地域統括相談支援センターという名称について) 誰に何をしてくれるのか分からないような名前ではかえって混乱を招く。

☆なお、日本対がん協会内のサイト「がんと診断された時からの相談支援」

(<http://www.jcancer.jp/can-navi/>) で、シンポジウムの動画が確認できる。

## シンポジウム 質問・意見用紙 — まとめ —

(35枚・55項目)

NO	性別	年代	立場	質問・意見	分類
1	女	40代	行政関係者	相談員の職種は？	機能
2	女	40代	行政関係者	年度ごとの民間への委託で、継続性は保てるのか？	機能
3	女	40代	医療従事者	栃木県北部は、医療過疎地域と言われています。中規模の病院が数か所あり、いずれもがん治療において標準治療を行っていると広告しています。しかし、それらの施設からの相談を概観すると、本人へ未告知で化学療法を行ったり、未だに緩和ケアは終末期の医療であると医療者から話されたり、セカンドオピニオンや転院したいと言ったら、もう来るなど言われたなど、相談者と問題解決についていくら考えてみても施設側の質の問題によるものが多く、正しい知識を提供していかない限り、がん患者の苦痛はなくなるのではないかと考えます。相談したとしても、改善策が見いだせないままでは治療に向き合うこともつらくなると思います。	機能
4	女	30代	医療従事者	拠点病院ががん相談員との情報交換会で挙がる具体的な内容が知りたい。(どのような情報？)	機能
5	男	40代	その他 (企業患者支援部門)	治療、副作用、検査に関する相談が多いようですが、どの程度詳しく回答されるのでしょうか？	機能
6	男	40代	その他 (企業患者支援部門)	製薬会社や検査会社は、クサリの副作用や対処法について患者さん向けに解説する冊子などを作成していますが、活用されることはありますか？	機能
7	男	60代	大学職員	相談内容において、就労が22件あります。相談を受けて、その内容の解決はどのように行っているのでしょうか。(例)勤務先の担当者と面談する、転職を考える、他。	機能
8	女	40代	医療従事者	ワンストップと言いつつ、逆に分断するような状況も見受けられるように思えたが？	機能
9	女	40代	医療従事者	アクセスが不便なところに設置されなかった事情は？	機能
10	女	40代	医療従事者	ワンストップセンター機能を持たせるには、行政や病院だけでは限界があるように思いますが、いかがお考えでしょうか？	機能
11	男	60代	患者・患者家族	三重県南部は医療過疎ですが、そのような地域でのがん患者家族への相談支援はどうしておられますか？	機能
12	女	60代	患者・患者家族	沖縄県の希少がん情報:希少がん・難治がんは多くありますが、どのがんの情報提供ですか？	機能
13	男	70代以上	患者・患者家族	「生活相談」というのは具体的にどんなことですか？	機能
14	女	-	医療従事者	機能強化を課せられた、今ある都道府県拠点病院と地域統括相談支援センターの住み分けをどうしているのか。また、地域拠点病院の相談支援センターと地域統括相談支援センターが、どのようなことを具体的に行っているのか、具体事例等あげていただきたい。	機能
15	女	-	医療従事者	例えば、地域統括相談支援センターが行う就労支援相談と地域拠点病院が行う就労支援に違いがあるか。あるいは、地域統括相談支援センターが行うので、拠点病院の相談支援センターは行わなくていいということがあるのか。	機能
16	女	-	医療従事者	拠点病院の相談支援センターは、要件が厳しく定められているが、地域統括相談支援センターは都道府県で自由にあり方・要件を決めていいのか？	機能
17	女	-	医療従事者	本日ご発表のセンターにおかれましては、充実した事業をされていることは理解できましたが、「ワンストップ」ということはなかなか難しいのではないかと考えます。今後、この地域統括相談支援センターを各都道府県に設置されるよう推進されていけるのか、拠点病院がん相談支援センターとの住み分け等、展望を教えてくださいいただければと思います。	機能

NO	性別	年代	立場	質問・意見	分類
18	女	40代	医療従事者	相談支援センターの存在と役割を多くの患者さん・ご家族に知っていただくための効果的な広報の方法について患者の立場からのご意見をいただきたいです。	広報
19	女	40代	医療従事者	(がん相談支援センターでは広報として、紹介カードなどの運用がありますが、定着しない実際があります。)医療者への働きかけ、広報についての進め方について考えていることはあるでしょうか。	広報
20	男	50代	患者・患者家族	地域統括相談支援センターの認知度向上(利用者の増加)のために工夫していること	広報
21	女	40代	医療従事者	拠点病院で、がんの診断を受けた方ですら、誰とも相談をできずに、心身ともに困り切った状態で、通院できなくなり、在宅療養につながる例が多く、初診から1ヶ月以内に終了する患者さんが減りません。介護保険の認定が死亡後ということが多いのが現状です。”がんが診断された時”から、”ここに寄ってみて”的でいいと思うのですが、相談場所を提示して頂くことから、始めて欲しいと思います。在宅系の仕事に就いて10年と少したちますが、患者さんの状況にあまり変化を感じません・・・。	広報
22	女	60代	医療従事者 福井県委託事業:福井県看護協会がん患者相談支援事業担当	がん拠点病院以外の相談室として地域に開かれた相談室を目指しており、定例相談以外に、拠点病院のない地区に出向いて出張相談、出張サロンを開催しているが、利用者が少ない。チラシ、新聞で広報しているが、どのような工夫をするとよいのか。(たとえば、市町との連携など)	広報
23	女	40代	行政関係者	ピアサポーター3名は看護師?	ピアサポート
24	-	70代以上	患者・患者家族	ピアサポーターの養成講座を受けたい人の年齢の制限はしているか。	ピアサポート
25	-	70代以上	患者・患者家族	ピアサポーターの講習を受けたサポーターがかならずしも適切な行動をするとは限らない、その場合の適切な指導方法などは持っているか。	ピアサポート
26	女	40代	医療従事者	ピアサポートの質の向上・維持が問題となってきています。これについて具体的な取組みがあれば教えてほしい。	ピアサポート
27	男	50代	その他 (地域統括相談支援センター)	がん体験者(ピアサポーター)が個別相談を担う場合、相談の質の担保において、どのような工夫をしているのか。(人選・研修・人材育成・相談方法の配慮など)[高山先生へ]どうあるべきと思うか。	ピアサポート
28	女	30代	-	各地域にてピアサポーターの養成をなさっておられますが、その研修・育成内容は個別に開発されたものなのでしょうか?何か養成マニュアルのような共通するものがあるのでしょうか?また、どのようにノウハウを共有されているのでしょうか?	ピアサポート
29	男	50代	その他 (患者団体)	ピアサポート活動が各地で始まっていますが、まだまだ特定の代表選手による開催のように見受けられます。今後、もっと増やす必要がある中で、新たに、ピアサポーターの養成を受けようとしても、その機会はあまりにも少ないのが実情です。今日の報告は成功例。日本で今後の普及のあり方を、どのように考えておられるのか。実情はどうか。具体的に教えてほしい。東京都も行っていませんので。	ピアサポート
30	男	50代	患者・患者家族	ピアサポーターの研修終了レベルの平準化をどう考えているか?県ごとの研修内容のすり合わせが必要ではないか?	ピアサポート
31	女	40代	医療従事者	ピアサポート機能は本来、行政や医療の主導下ではなく、患者さん自身の自由・自発的な活動から生まれないと、本質的に重要な点を損なってしまうのではないのでしょうか。この地域統括相談支援センターの中に、ピアサポート機能をかかげるのは、各地域の団体が力をつけるまでの過渡的なものなのか、永続的なものなのか、どう考えていらっしゃるかを知りたいです。	ピアサポート
32	女	-	患者・患者家族	拠点病院内の相談支援センターや院内サロンと「地域統括相談支援センター」の違いが未だはつきりしません。アンケートを見る限りでは、私の居住県では、「地域統括相談支援センターと類似する組織がある」となっていますが、がん患者であり、がん対策推進協議会委員をつとめさせていた私にも、どこにあるか分かりません。拠点病院に通院していないからかもしれません。病院の相談支援センターがこれにとって代わっているのでしょうか・・・	ピアサポート
33	女	60代	患者・患者家族	ピア・サポーターの派遣は有料ですか?	ピアサポート

NO	性別	年代	立場	質問・意見	分類
34	男	70代以上	患者・患者家族	患者は自分と同じガン種の人に相談したいと考えているが、サポーターの経験したガン種が違う場合、うまくピアサポートできるのか？	ピアサポート
35	男	70代以上	患者・患者家族	ピアサポートの結果のフォロー(たとえば満足度調査)をされたことは？結果はどうでしたでしょうか？「Ti-daわらば一む」は成功例と思いますが、他のガン種でも成功した例はありますか？	ピアサポート
36	男	40代	行政関係者	地域統括相談支援センターにとっての大きな課題は、医療従事者・患者・一般の方への認知度向上だと思われます。例えば、ピアサポーターを継続養成する、がん教育にピアサポーターを派遣調整する、院内ドクター・看護師がピアサポーターに講演するなど考えられますが、効果的な手法があれば、お示し下さい。	ピアサポート
37	女	40代	医療従事者	ピア・サポーターさんが様々な活動をされていることがわかり、大変勉強になり、ありがとうございます。いろいろな県のピアサポート活動の話を伺っていると、ボランティアで活動をされているところもあるようです。富山県さんの場合いろいろ派遣されているようです。どのような形(ボランティア？有償？)でしょうか？ご教示いただけますとありがたいです。	ピアサポート
38	女	40代	患者・患者家族 医療従事者	「地域統括」というからには、地域にある資源をうまく活用するための連携作りが大事だと思う。その部分は病院の相談員にはできない。そのところはどのように行っていくのか？	連携
39	女	30代	医療従事者	がん治療連携拠点病院とどのように連携を取っているのかももう少し具体的にお聞かせ下さい。	連携
40	男	60代	患者・患者家族	各がん相談支援センター間や患者団体・関連機関などとの連携がうまくいっている所はありますか。	連携
41	男	60代	患者・患者家族	三重県の地域によっては、がん患者は奈良県や愛知県の医療機関を利用することがあるが、このような県との連携はどうするのか。	連携
42	男	60代	患者・患者家族	肝臓がん患者の相談支援で肝疾患相談支援センターとの連携はどうしておられますか。	連携
43	男	60代	患者・患者家族	セカンドオピニオンの申し出が難しいということから、当たり前とすることが必要。行政・マスコミはもっと啓蒙すべき。自分の経験では全く問題なかった。問題は治療・先生の選択を自分でせねばならぬこと。不安も大きく、ここの支援が大事と思います。	その他
44	女	40代	行政関係者	記載されている以外の地域統括相談支援センター or 類似のセンターはどこにあるのか。	その他
45	女	70代以上	患者・患者家族	やはり本田様のご自身のことがあり、患者としての気持ちがよくわかりました。	その他
46	男	40代	その他 (企業患者支援部門)	民間企業として協力できることがあれば教えて下さい。	その他
47	男	60代	その他 (大学職員)	補助金の終了後は各自自治体ではどのように対応していくのか？条例で決まっていると予算は確保できるが、それ以外での対応はどうするのか？	その他
48	女	50代	患者・患者家族	地方と違い東京は拠点病院や患者会の数も多く、なかなか統一が取れないという特徴があると思います。東京都の行政の中で地域統括相談支援センターを作って欲しいと思っても、なかなかニーズが伝わらないというジレンマもあります。(東京都はピアサポーターの養成もしていないし、消極的だと思います。)患者として声を上げる際にマスメディアの力を借りられたら・・・と思いますが、その方法もわかりません。患者会レベルでどんなことができるのか、もしも入口があるのなら教えてもらいたいです。	その他
49	男	50代	患者・患者家族	全がん患者のうち、拠点病院で治療を受けている患者と、その他の病院で治療を受けている患者の、おおよその比率が知りたい。若尾先生？	その他
50	女	70代以上	患者・患者家族	多くの病院でリンパ浮腫について、不親切だと感じます。リンパマッサージを正しくできるよう、このような機会を持って、専門の人に教えてもらいたいです。	その他

NO	性別	年代	立場	質問・意見	分類
51	女	30代	医療従事者	地域統括相談支援センターというネーミングについて、本当に患者や家族が相談しやすいがん相談体制を目指すなら、このような誰に何をしてくれる機関か分からないような名前では、かえって混乱を招くこともあると思う。名前を聞いて(そもそもがん対策かどうかすら分からない)、地域包括支援センターや地域活動支援センターなど、他分野や既存の資源との兼ね合いにも配慮して考えてほしい。	その他
52	女	40代	医療従事者	「地域統括相談支援センター」という名称は、なぜこのような名称になったのか？実際に運用上の名称には本日伺ってわかる他にはどのようなものが？地域包括支援センターとの誤解を招きやすい名称と思うが、その点の見解は？	その他
53	女	40代	医療従事者	複雑多様な相談にのるためには、人材の選定が重要と考えるが、そこに要件がないことをどう考えているのか？	その他
54	女	50代	医療従事者	「地域統括相談支援センター事業」は、各都道府県の判断に完全に委ねているのかどうか。各都道府県の取り組みなどを、全都道府県にフィードバックしたりしているのかを教えてください。各県で「がん対策」の考え方はかなり違っていると思いますが、厚生労働省の方向性などは示されているのか知りたいです。	その他
55	女	60代	患者・患者家族	早口で分かりづらい。患者の立場から話しておられるというよりは、評論的に聞こえました。もう少し切実に患者の思いを伝える人の方がふさわしかったのでは？と思います。	その他

厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」  
**シンポジウム「地域統括相談支援センターで変わるがん相談」2015. 8. 26**  
**質問・意見用紙**

本日はご来場いただきましてありがとうございます。  
 最後のパネルディスカッションでは、皆さまのご質問・ご意見をもとに進めてまいります。  
 講演内容などに関して、ご質問・ご意見がございましたら下記の記入欄にお書きください。

ご記入いただきました「質問・意見用紙」は

**休憩時間（14:30～15:00）に回収させていただきます。**

お住まい：	都道府県	市区
性別：	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女
年代：	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代
	<input type="checkbox"/> 40代	<input type="checkbox"/> 50代
	<input type="checkbox"/> 60代	<input type="checkbox"/> 70代以上
立場：	<input type="checkbox"/> 患者 患者家族 <input type="checkbox"/> 医療従事者 <input type="checkbox"/> 行政関係者 <input type="checkbox"/> その他（                      ）	

**【ご質問・ご意見】**

質問回答希望者を下記から選択してください。

- 天野 慎介 一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン理事長  
厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援検討委員会」委員長
- 大谷 剛志 厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課長補佐
- 高山 智子 国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供研究部長
- 坂口 実 富山県厚生部健康課 がん対策推進班長
- 内上ミワ子 富山県がん総合相談支援センター 統括相談員
- 加太 竜一 三重県健康福祉部医療対策局 健康づくり課長
- 黒田 和博 三重県健康管理事業センター 教育広報部長 〈三重県がん相談支援センター〉
- 増田 昌人 沖縄県地域統括相談支援センター長
- 吉田万里子 京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長/京都府がん総合相談支援センター長
- 本田麻由美 読売新聞東京本社 編集局社会保障部次長

ご質問・ご意見を下記にご記入願います。


## シンポジウムでのアンケート集計報告書の概要

シンポジウムの参加者（127 人）にシンポジウム参加後の感想・意見・要望を質問用紙に記入してもらいアンケートを実施したところ、78 人（男性 22 人、女性 56 人）から回答（回収率 61%）があった。

要望等の記入があったのは 41 人。がん診療連携拠点病院内の相談支援センターと地域統括相談支援センターの違いを明確にすることを求める意見や、ピアサポーターの養成・確保に関する意見が目立った。相談支援事業に関する主な要望・意見は以下の通り。

- ・がん患者の消費者センターみたいになればいい。医療、心、お金、仕事、保険、法制上のものなど、どこへどう相談すればよいか紹介業務が必要
- ・病院外に置くことのメリットは、患者が医療機関に気兼ねなく相談できることだが、ここが普及の妨げになっていないか。→医療への苦情は保健所を活用する方法もある。ピアサポートは患者に寄り添うものであり、ある程度の基準を満たした人でないと、患者にマイナスとなる恐れもある。
- ・就労や生活についての相談は、病院よりも行政や社協の方が身近で相談しやすく、他機関とも連携しやすい部分もある。
- ・がん診療連携拠点病院内と地域統括相談支援センターの違いがよくわからない。相談所を増やすなら、患者にわかりやすく情報提供しないと、混乱を招くだけ。
- ・(地域統括相談支援センターは) 拠点病院の相談支援センターでできない相談に特化して、すみわけて発展して行ってほしい。病院・医療機関所属でない人や公平性が担保できる人をどのように選んでいくかが課題。24 時間相談対応してもらえる所が、全国に一つでもあれば。
- ・(地域統括相談支援センターと) 拠点病院の相談支援センターとの区別、同じところを明確にしてほしい。24 時間 365 日相談を受ける等、国として作るのであれば、ここを明確にして。
- ・一番重要なのは人。相談員やピアサポーターの確保と養成に、予算を優先的に充てることが重要。相談員やピアサポーターの養成・研修は近隣の都道府県が共同で行うと効率的。
- ・全都道府県に地域統括相談支援センターがあってほしい
- ・(地域統括相談支援センターが) がん患者・家族を支援するすべての団体をコーディネートできるといい。
- ・県立がんセンターの中に「統括」役割ができるよう予算を

厚生労働省委託事業  
「がんと診断された時からの相談支援事業」シンポジウム  
地域統括相談支援センターで変わるがん相談  
アンケート集計報告書

開催日：2015年8月26日（水）

開催場所：国立がん研究センター

国際研究交流会館 3階国際会議場

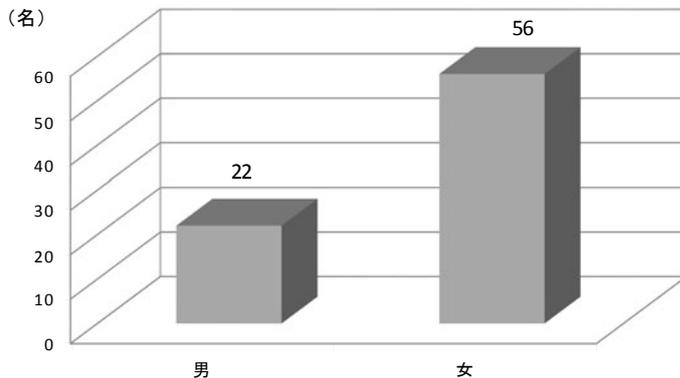
公益財団法人日本対がん協会

（厚生労働省委託事業「がんと診断された時からの相談支援事業」）

シンポジウム参加者数：127名、アンケート回収：78名（回収率 61%）

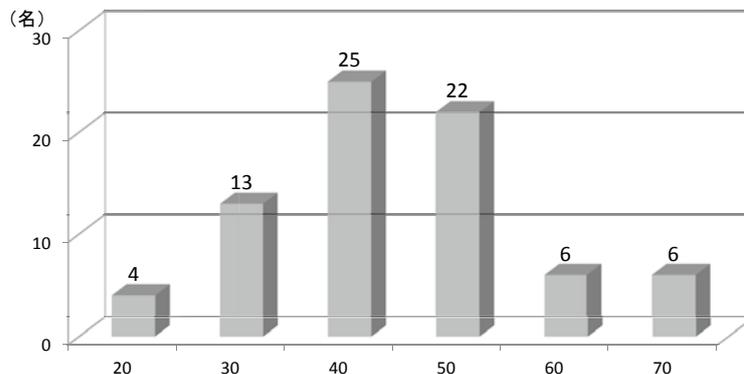
職種(回答者 78名)：

男 (22名、28%)、女 (56名、72%)



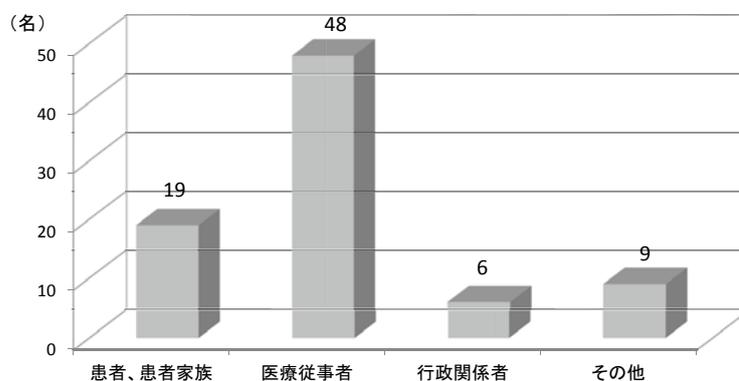
年代(回答者 76名)：

20代 (4名、5%)、30代 (13名、17%)、40代 (25名、33%)、50代 (22名、29%)、  
60代 (6名、8%)、70代以上 (6名、8%)



立場(回答者 77名 複数回答 5名)：

患者 患者家族 (19名、23%)、医療従事者 (48名、59%)、行政関係者 (6名、7%)、  
その他 (9名、11%)

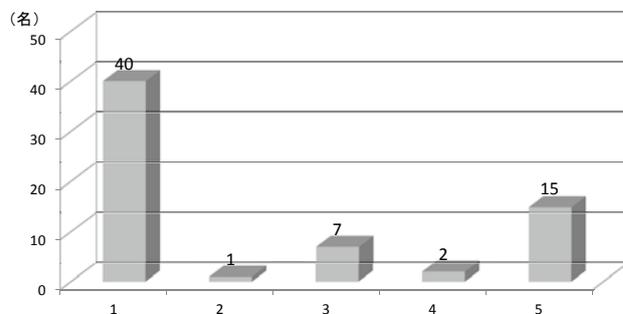


\*その他 (具体的に記載 6名)：患者団体、千葉県地域統括相談支援センター、社会保険労務士、  
地域統括相談支援センター、NPO 法人、大学職員

◆当シンポジウムを知ったキッカケを教えてください。(回答者 62 名 複数回答 3 名) :

1. ポスター、チラシで知った (40 名、61%)、
2. 新聞の案内記事で知った (1 名、2%)、
3. WEB で知った (7 名、11%)、
4. Facebook、Twitter など知った (2 名、3%)、
5. 知り合いから教えてもらった (15 名、23%)

(知り合いが何かがん相談に関わっている場合、その団体名を教えてください)

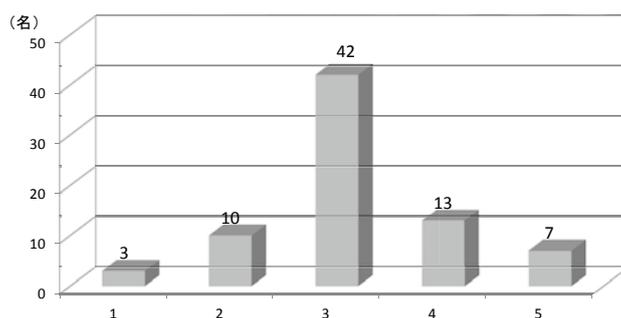


\*団体名 (具体的に記載 6 名) : 日本医療コーディネーター協会 (4 名)、  
都道府県相談支援部会 (1 名)、樋口さんのネットコラム (1 名)

◆内容についてそれぞれの満足度を教えてください。

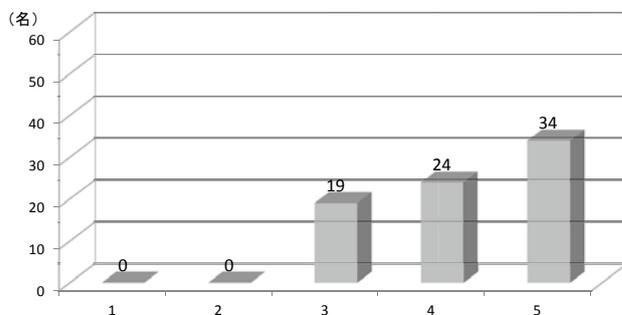
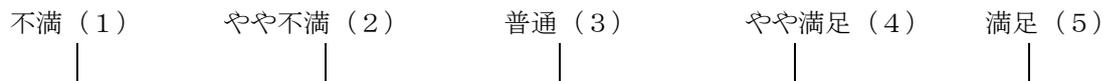
1. 「地域統括相談支援センターとは ー地域統括相談支援センター事業の目指すところー」  
大谷 剛志 (厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課長補佐)  
回答者 75 名 3.1±0.9 点 (最大 : 5 点、最小 : 1 点)

不満 (1)      やや不満 (2)      普通 (3)      やや満足 (4)      満足 (5)



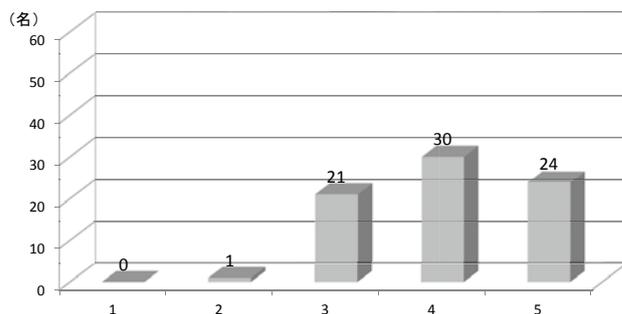
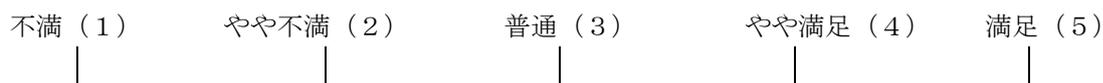
2. 「地域統括相談支援センター設置の現状や類似組織の現状、相談支援体制の現状と課題」

高山 智子 (国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供研究部長)  
 回答者 77 名 4.2±0.8 点 (最大: 5 点、最小: 3 点)

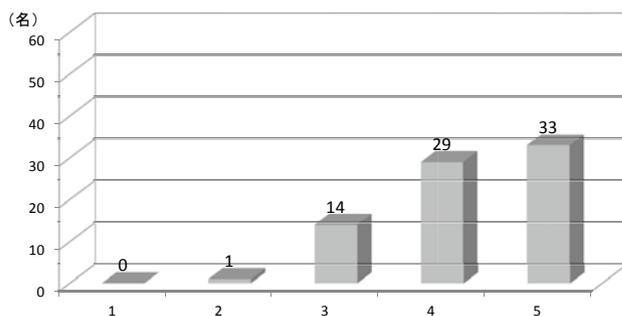
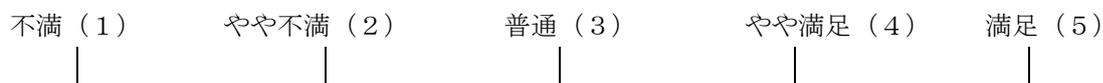


3. 地域統括相談支援センターを設置した自治体からの報告

3-1 坂口 実 (富山県厚生部健康課 がん対策推進班長)  
 回答者 76 名 4.0±0.8 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)

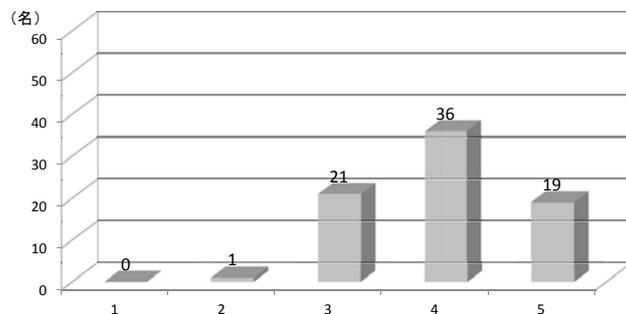
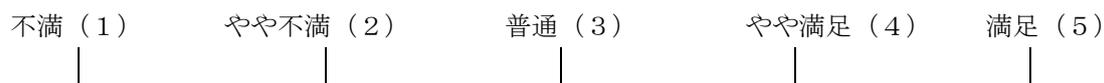


3-2 内上 ミワ子 (富山県がん総合相談支援センター 統括相談員)  
 回答者 77 名 4.0±0.8 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)



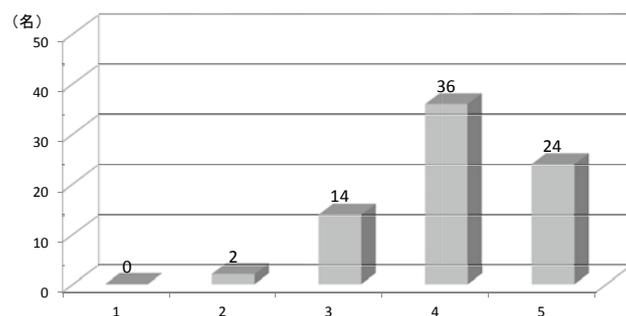
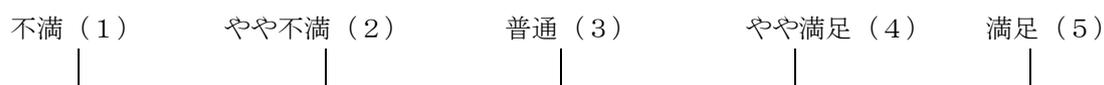
3-3 加太 竜一 (三重県健康福祉部医療対策局 健康づくり課長)

回答者 77 名 3.9±0.8 点 (最大:5 点、最小:2 点)



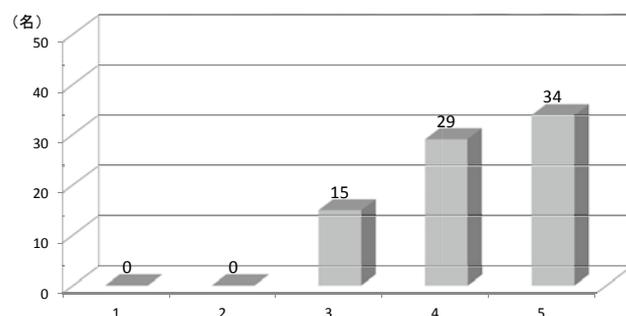
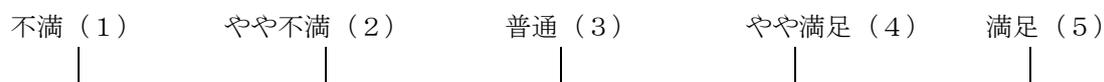
3-4 黒田 和博 (三重県健康管理事業センター 教育広報部長 (三重県がん相談支援センター))

回答者 76 名 4.1±0.8 点 (最大:5 点、最小:2 点)



3-5 増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター長)

回答者 78 名 4.2±0.8 点 (最大:5 点、最小:3 点)

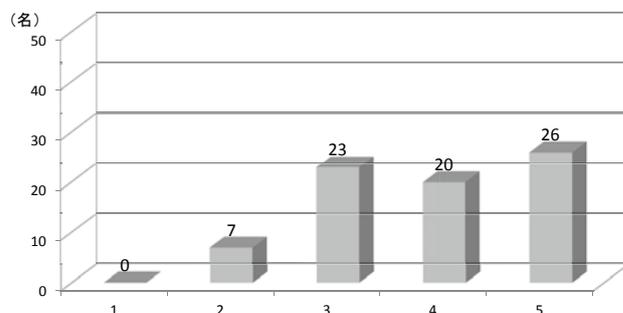
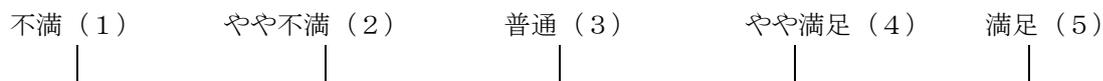


4. 地域統括相談支援センターに類似した組織から始めた自治体の報告

吉田 万里子

(京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長/京都府がん総合相談支援センター長)

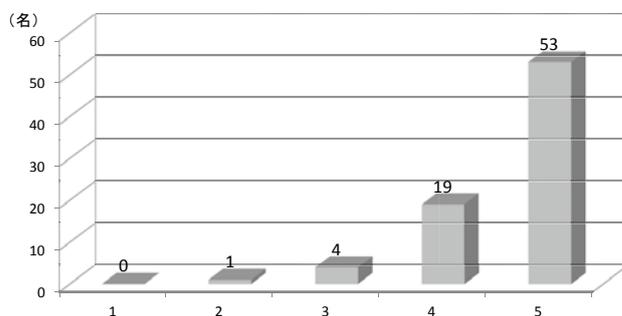
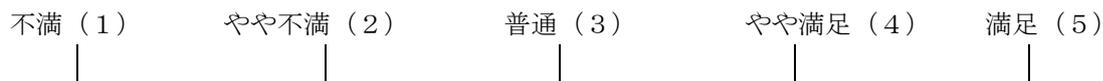
回答者 76 名 3.9±1.0 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)



5. 患者側からみたがん相談体制への期待

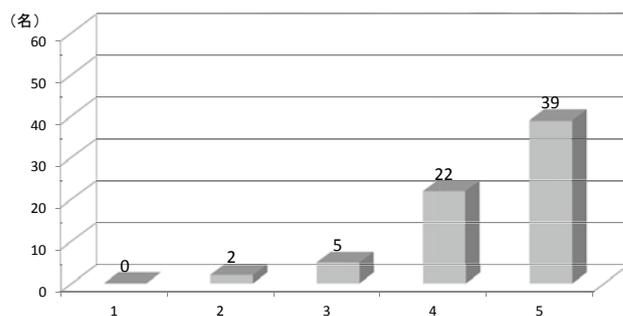
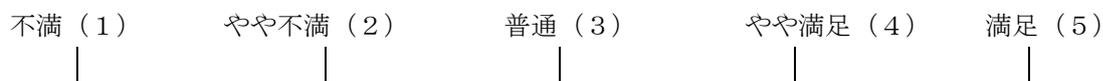
本田 麻由美 (読売新聞東京本社 編集局社会保障部次長)

回答者 77 名 4.6±0.6 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)



6. パネルディスカッション

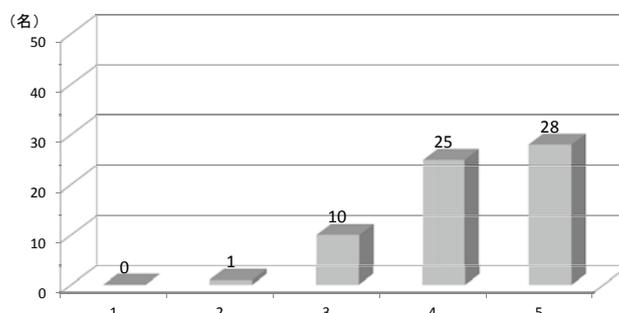
回答者 68 名 4.4±0.8 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)



## 全体について

回答者 64 名 4.3±0.8 点 (最大: 5 点、最小: 2 点)

不満 (1)                  やや不満 (2)                  普通 (3)                  やや満足 (4)                  満足 (5)



## ◆その他、要望等ございましたらご記入ください。(回答者 41 名 44 件)

- がん患者の消費者センターみたいになればよいのでは。医療、心、お金、仕事、保険、法制上のものなど。どこへどう相談すればよいかの照会業務が必要。あとは、草の根でがんカフェとかなら、我々でも 1 歩は踏み出せます。
- ①拠点病院の相談センターでなく、地域統括相談支援センターだからこそできることについて、踏みこんだ発表があると、現時点で未設置の県にも、参考になるのではないかと感じました。②病院外に置くことのメリットは、患者が医療機関に気兼ねなく相談できるということだが、ここが普及の妨げになっていないか。→医療への苦情は保健所を活用する方法もある。③過渡期ではないかとの意見もあったが、ピアサポートは患者に寄り添うものであり、ある程度の基準を満たした人でないと、患者にマイナスとなる恐れもある。継続的な取り組みとすべきでは。なお、サロンは自発的なものとされればよいと考える。
- 本田さんの話にもあったようにがん診療拠点病院内と地域統括相談支援センターの違いがよくわからないと感じた。相談所を増やすなら違いを明確にして、患者にわかりやすく情報提供できるようにしないと、混乱を招くだけのように思う。
- 「地域統括相談支援センター」がどのような活動をされているのか、今日のお話を聞いて少しわかりました。「都道府県がん相談支援センター」と「地域統括相談支援センター」の違い、それぞれに求めること、どういう連携ができるのか、まだまだわからない部分もあり、もう少し具体的にお聞きできたらと思いました。
- がん拠点病院のがん相談支援センターでできない相談に特化して、すみ分けして発展していった欲しいと思います。病院・医療機関所属でない人 (NPO 法人) や公平性が担保できる人をどのように選んでいくか、課題とされます。又、24 時間対応してもらえる相談センター(特に夜間 17:00~08:30 までの)、相談対応をしてもらえる所が、全国に 1 つのラインでもあればと思います。
- 地域統括相談支援センターの存在意義はそれなりにあると思うが、今のところ、都道府県が主体のため、あり方もまちまちで今後の展望が見えなかった。地域の特性としてまちまちでよければ、それはそれでいいと思うが、今後拠点病院の支援センターと同様に、国の施策の中に組み込まれるのであれば、拠点病院の相談支援センターとの区別、同じところを的確にしてほしいと思った。たとえば 24 時間 365 日相談をうける等、都道府県でつくるのはいいが、国として作るのであればここを明確にしてから作るべき。

- もう少し長く具体的な内容までお聞きできたら、と思いました。(時間に限りはあると思いますが。) 拠点病院の相談支援センターと地域統括相談支援センターの違いという点など、もう少し具体的なところを知りたいと思いました。地域統括に関しましては、都道府県や県拠点を中心に検討していただきたいと感じました。地域拠点病院の相談支援センターの質の向上も必要だと感じることができました。病院内にある相談支援センターには相談しにくい現状があることを知ることができ参考になりました。
- それぞれの地域統括相談支援センターの活動を聞き、違いはあるものの、患者目線で取り組んでいることが伝わってきた。がん拠点病院の相談支援センターの役割と地域統括相談支援センターの役割は別のものであるべきなのか、統括の意味がはっきりしない。全体的に、という役割であれば別のも。
- がん拠点病院の相談支援センターの役割と地域統括相談支援センターの役割は別のものであるべきなのか、統括の意味がはっきりしない。
- ディスカッションは質問に答えながら、もっと問題点を明確な方向に導いて欲しかった。最後の「連携」、「ワンストップ」の狙いの発言は良かったと思います。
- 先駆けた取り組みについて、様々なお立場の方のお話を聴くことができ、勉強になりました。サロンやピアサポートの運営について、今後参考にしていきたいと思います。就労や生活についての相談は、病院よりも行政や社協の方が身近で相談しやすい、また他機関とも連携しやすい部分もあるのかなと思いました。
- 「がん」について、行政、医療者、患者、様々な立場から取り組みが発表されていて、良かったと思う。質問に答える形で、パネルディスカッションが実施されたのは非常に良かった。
- 患者家族から見て、「転勤族」なので、今後日本のどこに行かされるかわからないので、東京でないと行ったら、がん検診でがんとすと言われた時、他の県ではどうなっているのか興味をもって聞かせていただきました。ありがとうございました。※本田さんすごいです！ご卒業おめでとうございます。
- 患者や家族にとって「地域統括相談支援センター」は、身近な存在であるべきで、心のよりどころとなる場所だと思います。多くの先生方も言及されていましたが、やはり一番重要なのは、「人」だと思います。相談員やピアサポーターの確保と養成に、予算を優先的に充てるのが重要だと思います。予算は限られていると思いますので、近隣の都道府県とも連携して、相談員やピアサポーターの養成や研修を共同で行ったりすると効率的だと思います。都道府県を越えた相談員やピアサポーターの派遣もするとよいと思います。他県との情報交換・ノウハウ交換を活発にすることで、より良い支援活動ができると思います。とても有意義なシンポジウムでした。本日はありがとうございました。
- 課題はどれも同じだと思います。人と人がどうつながっていけるか、具体的に動くことに尽きるでしょうね。
- ①患者が何に困っているか、不安になっているか、具体的な話を聞く場がもっと欲しい。②全都道府県に地域統括相談支援センターがあって欲しい。
- 全国で地域統括相談支援センターがもっと増えて患者さんが安心して相談できるようになることを願っています。
- 東京都の様子分らず残念でした。独自にがんカフェを9回/月1度(毎回30-25名参加者)開いている者として、物足りませんでした。
- 地域によりいろいろ取り組んでいる現状について理解できました。課題もたくさんありますが、必要なサポートをしっかりと行えるよう、体制を(連携、役割分担など)整えていく必要があると思った。
- 埼玉県：特に予算の問題が大きいです！せめて県立がんセンターの中に「統括」役割ができるよう予算を！拠点病院同士の連携は可能なので、いかに連携していくかで、資源がフルに活用

できると確信しています。だから(人・物・金のマネジメントも含め) 統括する場が必要かも。

- 坂口様:とにかく「人」に尽きる!というのは理解できますが、要件も定まっていな中では、ではどうしたらよいかという課題として捉えていただく必要があるのではないのでしょうか。
- 吉田様:音声として非常に聞き取りづらかったです。
- 本田様:とてもよく分かる胸のすくお話でした。まさしく「がん」だけを考えても「総合相談」対応はできないと思っています。
- 本田さんが問題点を整理していたように思います。地域統括相談支援センターの役割大切です。がん患者・家族を支援するすべての団体をコーディネートできるといいですね
- 検討から実証へを期待しています。
- 行政(区)のがん相談を行っています。うまく運営できていないというか、壁にぶつかっていましたが(相談にくる人がいない)、自分の困っていることに対して具体化したのでとても良かったです。また開催してください。
- 次回の開催があるとするとして要望です。①難渋事例②対応好事例の提示をお願いしたい。恐らく地域連携が円滑にできることと思います。(多職種間連携)
- いろいろな立場の方のご意見を聞くことができ良かったです。こんなことに困っている、難しいということがもう少し詳しく聴けると良かったです。次回の開催を期待しています。
- 内容には満足。運営には不満。(今回の事業の主催者である委員が様付けなのは違和感がありました。どうでもいいことかもしれませんが。)会場が寒かった。(寒いのを理由に、途中で退出された患者さんらしき方もいました。)質問に答える時間が長かったのは、よかったと思います。
- 当日の申し込みについて?地域の選び方は(時間的なものもあるのでしょうか)これからも続いて全国的に発表されていくのでしょうか。
- 内容が盛り沢山だったので、各県のお話が表面的だったような気がした。もっとくわしく聞きたかった。
- 質問をペーパーで、とりまとめてくれるのは良かった。
- 寒かったです。※別件になりますが、以前、対がん協会様から冊子を送付いただいた時に、封筒を開けたとたんものすごくタバコの香りがしました。思わず、職場内を封筒のまま回覧させてもらいましたが、対がん協会という団体からだけに残念でした。
- とにかく寒い。よく聞こえない。話の焦点がだんだん広がって行って、よくわからなくなってしまった印象がある。
- 会場の冷房が強かったように思います。寒かったです。
- 早めのお知らせが良かった。来年も相談支援センター関係のことを開催していただきたい。
- 関西でも開催して欲しい。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- ありがとうございます。たくさん事例が知れて勉強になりました。
- ありがとうございます。勉強になりました。遠方から来た甲斐がありました。
- 様々な立場からの意見が聞けたことが非常に良かった。
- 他県の取り組みが分かり大変参考になりました。
- パネルディスカッションの内容が役に立った。
- とても意義のあるシンポジウムでした。また開いて欲しいです。がんサロン→ピアサポート→地域統括相談支援センターと、患者をフォローする体制は確実に進歩してきていると実感できました。ありがとうございました。若尾先生にはこの流れを押し進めて行って欲しいです。

以上

## シンポジウム「地域統括相談支援センターで変わるがん相談」2015. 8. 26

ご参加いただき、ありがとうございます。みなさまからのご意見を今後の事業進行に活かしますので、アンケートにご協力をお願いいたします。下記の記入欄にお書きください。

性別：	<input type="checkbox"/> 男	<input type="checkbox"/> 女				
年代：	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代	<input type="checkbox"/> 50代	<input type="checkbox"/> 60代	<input type="checkbox"/> 70代以上
立 場：	<input type="checkbox"/> 患者 患者家族 <input type="checkbox"/> 医療従事者 <input type="checkbox"/> 行政関係者 <input type="checkbox"/> その他（ ）					

## ◆当意見交換会を知ったキッカケを教えてください。

ポスター、チラシで知った 新聞の案内記事で知った WEBで知った Facebook、Twitterなどで知った  
知り合いから教えてもらった(知り合いが何かがん相談に関わっている場合、その団体名を教えてください)

## ◆内容についてそれぞれの満足度を教えてください

## 1. 「地域統括相談支援センターとは ー地域統括相談支援センター事業の目指すところー」

大谷 剛志 (厚生労働省健康局 がん対策・健康増進課長補佐)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

## 2. 「地域統括相談支援センター設置の現状や類似組織の現状、相談支援体制の現状と課題」

高山 智子 (国立がん研究センター がん対策情報センター がん情報提供研究部長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

## 3. 地域統括相談支援センターを設置した自治体からの報告

坂口 実 (富山県厚生部健康課 がん対策推進班長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

内上 ミワ子 (富山県がん総合相談支援センター 統括相談員)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

加太 竜一 (三重県健康福祉部医療対策局 健康づくり課長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

黒田 和博 (三重県健康管理事業センター 教育広報部長 (三重県がん相談支援センター))

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

増田 昌人 (沖縄県地域統括相談支援センター長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

## 4. 地域統括相談支援センターに類似した組織から始めた自治体の報告

吉田 万里子 (京都府健康福祉部健康対策課がん総合対策担当課長/京都府がん総合相談支援センター長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

## 5. 患者側からみたがん相談体制への期待

本田 麻由美 (読売新聞東京本社 編集局社会保障部次長)

満足 やや満足 普通 やや不満 不満

6. パネルディスカッション 満足 やや満足 普通 やや不満 不満

全体について 満足 やや満足 普通 やや不満 不満

## ◆その他、要望等ございましたらご記入ください。

以上です。ありがとうございました。

なお、このアンケートは「がんと診断された時からの相談支援事業」の事業進行のためにのみ使用し、目的外で使用することはありません。